長崎原爆資料館展示更新基本設計

令和７年３月

長崎市

■目次

基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・ 01
展示シナリオ ・・・・・・・・・・・ 02~05
展示ゾーニング図 ・・・・・・・・・・・ 06~07
コーナー概要　A.1945年8月9日 ・・・・・・・・・・・・・ 08
コーナー概要　1.1945年8月9日 ・・・・・・・・・・・・・ 09
コーナー概要　B.原爆による被害の実相 ・・・・・・・・・・・・・ 10
コーナー概要　2.原爆による被害の実相 ・・・・・・・・・・・ 11~13
コーナー概要　休憩スペース（情報提供コーナー） ・・・・・・・・・・・・・ 14
コーナー概要　C.核兵器のない世界を目指して ・・・・・・・・・・・・・ 15
コーナー概要　3.二つの世界大戦 ・・・・・・・・・・・ 16~21
コーナー概要　4.核兵器の脅威 ・・・・・・・・・・・ 22~26
コーナー概要　5.長崎の歩み ・・・・・・・・・・・ 27~31
コーナー概要　平和は長崎から ・・・・・・・・・・・・・ 32
コーナー概要　D.ビデオルーム ・・・・・・・・・・・・・ 33
コーナー概要　情報メディアコーナー ・・・・・・・・・・・・・ 34
ユニバーサルデザインの推進 ・・・・・・・・・・・・・ 35
理解を補助する展示装置の採用 ・・・・・・・・・・・・・ 36
最新のデジタル技術の活用 ・・・・・・・・・・・・・ 37
資料保存機能の強化と平和学習への対応 ・・・・・・・・・・・・・ 38

展示更新にかかる基本方針

1　長崎原爆資料館の基本理念・設置目的（再掲）

（1）基本理念

長崎国際文化会館の建替えにあたり作成した基本構想及び基本計画において、原爆資料館の基本理念を次のように定めている。（平成４年（1992 年）２月）

> 長崎市は、原爆被爆都市の使命として核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える責務がある。
> したがって、原爆被爆に関する資料の体系的な整備、展示、保存を図るとともに戦争の恐ろしさと原爆被爆の体験を次代を担う子供たちに語り伝え、世界恒久平和実現に努力する国際平和都市長崎のシンボル的な施設とする。

（2）設置目的

長崎原爆資料館の開館に向け、長崎原爆資料館条例を制定し、資料館の設置目的を次のように定めている。（平成７年（1995 年）12 月）

> （設置）
> 第１条　本市は、原子爆弾により被爆した都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国の内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため、原爆資料館を設ける。
> （事業）
> 第３条　長崎原爆資料館は、次に掲げる事業を行う。
> （１）被爆及び平和に関する資料の調査、収集、保存及び展示に関すること。
> （２）平和学習、被爆体験の継承その他平和を考える場の提供に関すること。
> （３）平和を推進するための調査及び研究に関すること。
> （４）その他市長が必要と認める事業

2　展示更新により目指す姿

> 原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受けとめ、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館になっている。

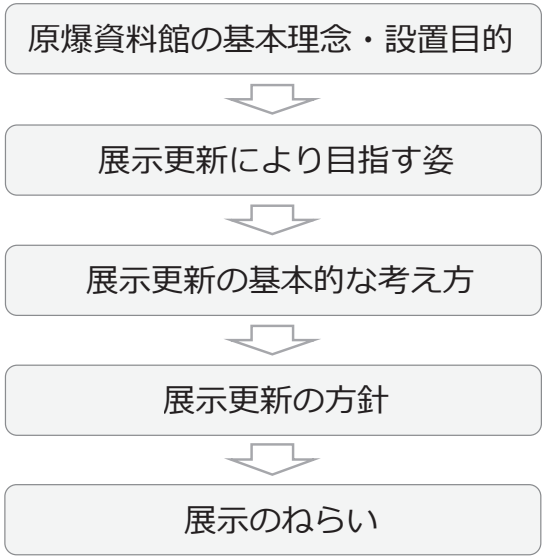
3　展示更新の基本的な考え方

館の基本理念や目的は変えず、時代の変化に応じて展示内容を更新する。

（１）戦争から遠くなった世代に、戦争（核兵器）によって日常が壊されることを自分事として捉えてもらうことで、原爆の被害の実相や被爆者の苦しみと願いをわかりやすく伝える。

（２）誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると同時に、平和な未来をつくる当事者であることへの気付きにつなげる。

（３）一人ひとりが身近なところから平和について考え、行動するきっかけをつくる。



■長崎原爆資料館　展示構成1

ゾーン	目　的	展示大項目	展示中項目	ねらい（展示大項目）	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
円形パビリオン	戦争を知らない世代でも、戦争を他人事ではなく、自分の身にも起こりうることとして捉えられるようにする。	**円形スロープパビリオン**	時をさかのぼる回廊	現在から1945年8月9日11時2分に向けて、時を遡るイメージを共有しながらスロープをたどる。そして、戦争中とはいえ、被爆前の長崎にも今の私たちと変わらない人々の暮らしがあり、そうした日常が一発の原子爆弾によって奪われてしまったことを知ってもらう。	－	グラフィック（既存）	年代表記（既存）
ロビー		**ロビー**	－		－	被爆前のくらし	被爆前の暮らしや街並みに関する写真・映像等
A.1945年8月9日	導入部。原爆投下により、長崎の街並みや人々の暮らしが一瞬で破壊されたことを伝える。	**1.1945年8月9日**	1-1.永遠の11時2分	決して忘れてはならない1945年8月9日11時2分を象徴する資料の展示や、被爆前後の様子が比較できる長崎の街並みの写真などを紹介し、長崎に投下された原爆の威力や被害の惨状などを視覚的に理解したうえで、資料館の見学を始められるようにする。	メッセージサイン	アクリル切文字（既存）	「長崎を最後の被爆地に」多言語テキスト
					－	展示ケース	破壊され停止した柱時計
			1-2.被爆前後の長崎		被爆前後の長崎	グラフィック・写真	被爆前後の様子が比較できる写真など
			1-3.原爆投下		原爆投下	米軍の原爆投下映像をループ上映	原爆投下の映像など
B.原爆による被害の実相	被爆資料を通して、原爆被害の凄まじさや非人道性、惨状を理解してもらい、このような悲劇を二度と繰り返してはならないということを伝える。	**2.原爆による被害の実相**	2-1.原子野と化した長崎の街	ー現状展示を継承ー	－	－	－
			2-2.浦上天主堂の惨状				
			2-3.長崎原爆投下までの経過				
			2-4.被爆した長崎の街				
			2-5.長崎型原爆（ファットマン）				
			2-6.熱線による被害				
			2-7.爆風による被害				
			2-8.放射線による被害	被爆者がいかに長く放射線に苦しめられ、またどのように向き合ってきたのか、医学の進歩による新しい知見も含め、わかりやすく伝えることで、原爆が単なる大きな爆弾ではなく、長期的な健康被害をもたらす特殊な爆弾であることを理解してもらう。	2-8-1.原子爆弾と放射線	グラフィック・写真・映像	放射線が細胞を傷付ける仕組みなど
					2-8-2.放射線が人体に及ぼす影響	グラフィック・写真・模型	原爆放射線による人体影響の生涯持続性など
					2-8-3.被爆医療の取組み	グラフィック・写真	被爆者と接してきた医者の体験談など
			2-9.救援・救護活動	被爆直後の困難を極めた救援・救護と、その活動に従事した人々について知ってもらう。	2-9-1.混乱と慟哭の中で	グラフィック・写真・資料	救護所で使用された医療器具など
					2-9-2.永井隆博士	グラフィック・写真・資料	永井隆博士の写真や遺品など
			2-10.被爆者と遺族の戦後	被爆者や遺族のエピソードを通して、原爆が長期にわたって人々を苦しめ続けた事実を認識してもらう。	2-10-1.身体的・精神的な苦しみ	グラフィック・写真・資料	後遺症やトラウマを抱える人々など
					2-10-2.大切な人を失った悲しみ	グラフィック・写真・資料	家族や友人を亡くした人々など
					2-10-3.生活における困難	グラフィック・写真・資料	原爆孤児・孤老、貧困に喘ぐ人々など
					2-10-4.社会的な差別と偏見	グラフィック・写真・資料	就職や結婚の際に不当な扱いを受けた人々など
			2-11.被爆者の訴え	ー現状展示を継承ー	－	－	－

■長崎原爆資料館　展示構成2

ゾーン	目　的	展示大項目	展示中項目	ねらい（展示大項目）	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C.核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	**休憩スペース（情報提供）**	–	–			
		3.二つの世界大戦	象徴展示：核兵器の誕生	歴史をきちんと見つめることが未来につながるという姿勢のもと原爆投下の背景にあった歴史や原爆の開発から投下に至るまでの道のりを客観的かつ多角的な視点からわかりやすく説明することで、戦争から遠くなった世代が戦争の愚かさや核兵器の非人道性について考えられるようにする。	四つの原子爆弾（模型）	グラフィック・写真	シンマン・ガジェット・リトルボーイ・ファットマンの模型
					兵器の開発と戦い方の変容	グラフィック・写真	毒ガスや戦車、飛行機の写真など
			3-1.第一次世界大戦 平和に向けた国際秩序の形成		3-1-1.世界戦争への道	グラフィック・写真	帝国主義やナショナリズムに関する資料など
					3-1-2.総力戦と新兵器の出現	グラフィック・写真・資料・映像	毒ガスに関する写真やガスマスクなど
					3-1-3.平和主義と国際協調体制の確立	グラフィック・写真	パリ講和会議や国際連盟、ワシントン会議に関する資料など
					3-1-4.生物化学兵器の使用禁止と戦争の違法化	グラフィック・写真・資料	ジュネーブ議定書やパリ不戦条約に関する資料など
			3-2.第二次世界大戦 戦争へ向かう日本と国際社会		3-2-1.満州事変と軍部の台頭	グラフィック・写真・資料・映像	関東軍や満州へ渡った人々に関する資料など
					3-2-2.国際連盟からの脱退	グラフィック・写真	日本が国際連盟を脱退する際の写真など
					3-2-3.日中戦争の長期化	グラフィック・写真・資料・映像	日中戦争に従軍した兵士の装備品など
					3-2-4.第二次世界大戦の勃発	グラフィック・写真	ヨーロッパ戦線の写真など
					3-2-5.アジア・太平洋戦争の開戦	グラフィック・写真・資料・映像	戦線の展開に関する地図など
			3-3.核時代の幕開け 原子爆弾の開発と投下		3-3-1.原爆の開発と実用化	グラフィック・写真・資料・映像	モード委員会報告書やトリニタイトなど
					3-3-2.原爆の使用決定と科学者たちの葛藤	グラフィック・写真・資料	フランク・レポートやシラードの請願書など
					3-3-3.広島・長崎への原爆投下	グラフィック・写真・資料	原爆投下命令書など
					3-3-4.日本の降伏と終戦	グラフィック・写真	終戦の日の写真など
			戦時下の長崎		1.長崎と浦上	グラフィック・写真・映像	被爆前の長崎の映像など
					2.軍需産業都市	グラフィック・写真・模型・資料	戦艦武蔵や魚雷の模型など
					3.長崎から戦場へ	グラフィック・写真・資料	現役兵証書や寄せ書き日の丸など
					4.勤労動員の日々	グラフィック・写真・資料	勤労動員に従事した学生の日記など
					5.銃後の暮らし	グラフィック・写真・資料	千人針や慰問袋など
					6.空襲と疎開	グラフィック・写真・資料	防空頭巾や焼夷弾の筒など

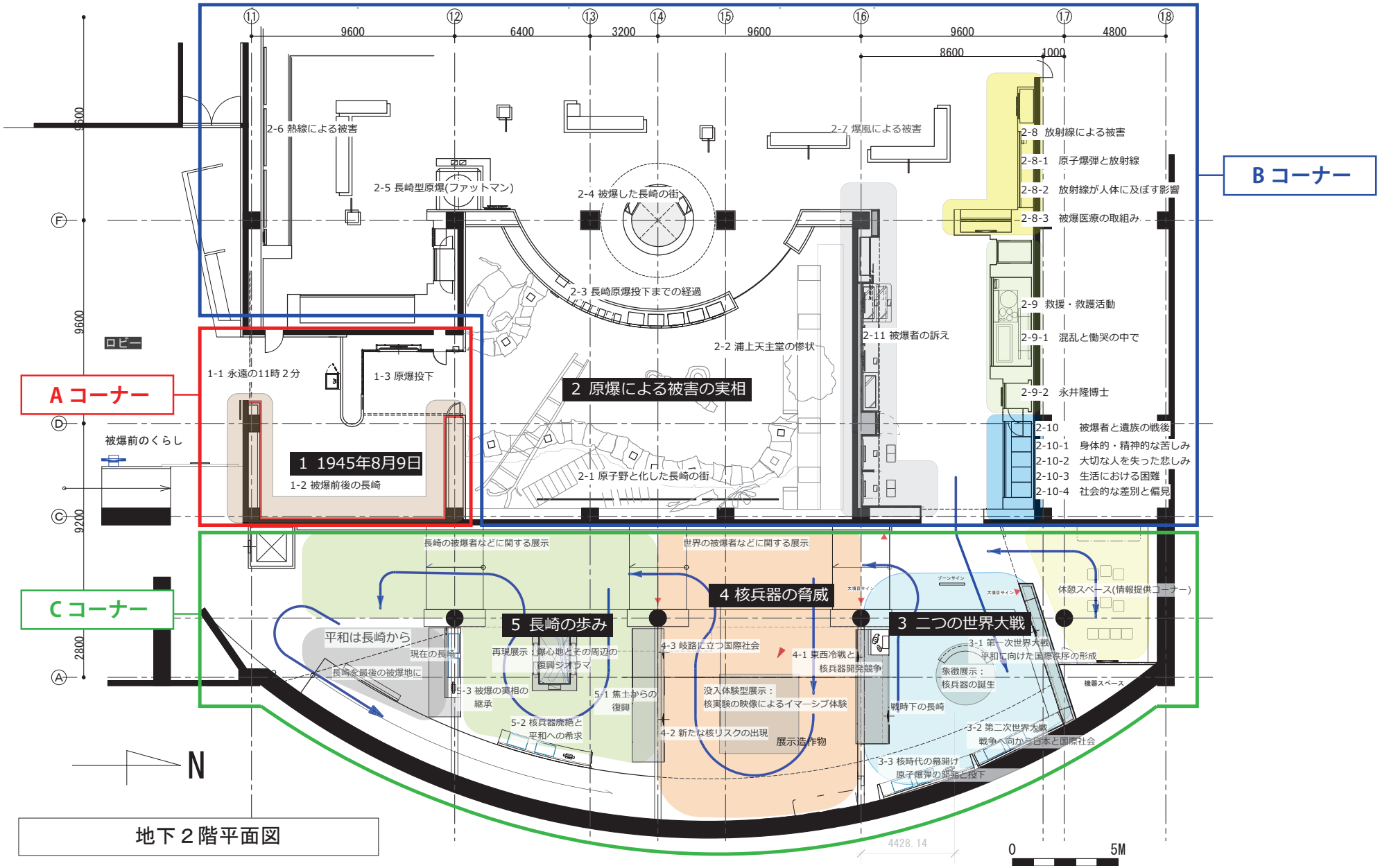
■長崎原爆資料館　展示構成3

ゾーン	目　的	展示大項目	展示中項目	ねらい（展示大項目）	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C.核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	**4.核兵器の脅威**	没入体験型展示 ：核実験映像によるイマーシブ体験	核兵器の開発をめぐる複雑な歴史や国際情勢、そして近年、核兵器使用の危険性が高まっていることを伝えることで、誰もが核兵器が存在する世界に生きる当事者であると自覚してもらうとともに、被爆地をはじめ、世界の多くの人が核兵器廃絶のための活動に取り組んでいることを知ってもらう。		体験型映像	水爆実験の映像（３面映像）など
			4-1.東西冷戦と核兵器開発競争		4-1-1.国際連合の設立と米ソ冷戦	グラフィック・写真・映像	鉄のカーテン演説の映像など
					4-1-2.核軍拡競争と水素爆弾の開発	グラフィック・写真・模型	世界終末時計や核ミサイルの模型など
					4-1-3.核兵器廃絶運動の広がり	グラフィック・写真・資料	第五福竜丸事件に関する資料など
					4-1-4.全面核戦争の危機	グラフィック・写真・模型	キューバ危機に関する資料など
					4-1-5.核軍縮・不拡散政策と問題点	グラフィック・写真	核兵器不拡散条約への署名時の写真など
			4-2.新たな核リスクの出現		4-2-1.冷戦の終結と核軍縮の前進	グラフィック・写真・映像	ベルリンの壁崩壊の映像や包括的核実験禁止条約に関する写真など
					4-2-2.核兵器開発技術の流出	グラフィック・写真・資料	”核の闇市場”に関する図表など
					4-2-3.アジアと中東における核拡散	グラフィック・写真・映像	インドやパキスタン、北朝鮮の核実験に関する写真など
					4-2-4.核テロの危険性と対策	グラフィック・写真・資料	アメリカ同時多発テロ事件やプラハ演説の写真など
			4-3.岐路に立つ国際社会		4-3-1.核使用リスクの高まり	グラフィック・写真	核兵器をめぐる現代の国際情勢に関する資料など
					4-3-2.核抑止の限界と脆弱性	グラフィック・写真・映像	新興技術と核兵器制御システムに関する資料など
					4-3-3.核兵器禁止条約の発効	グラフィック・写真・資料	核兵器禁止条約の発効時の写真など
					4-3-4.日本被団協のノーベル平和賞受賞	グラフィック・写真・映像・資料	ノーベル平和賞受賞に関する写真など
			世界の被爆者などに関する展示			グラフィック・写真・映像	核実験の被害者に関する写真など

■長崎原爆資料館　展示構成4

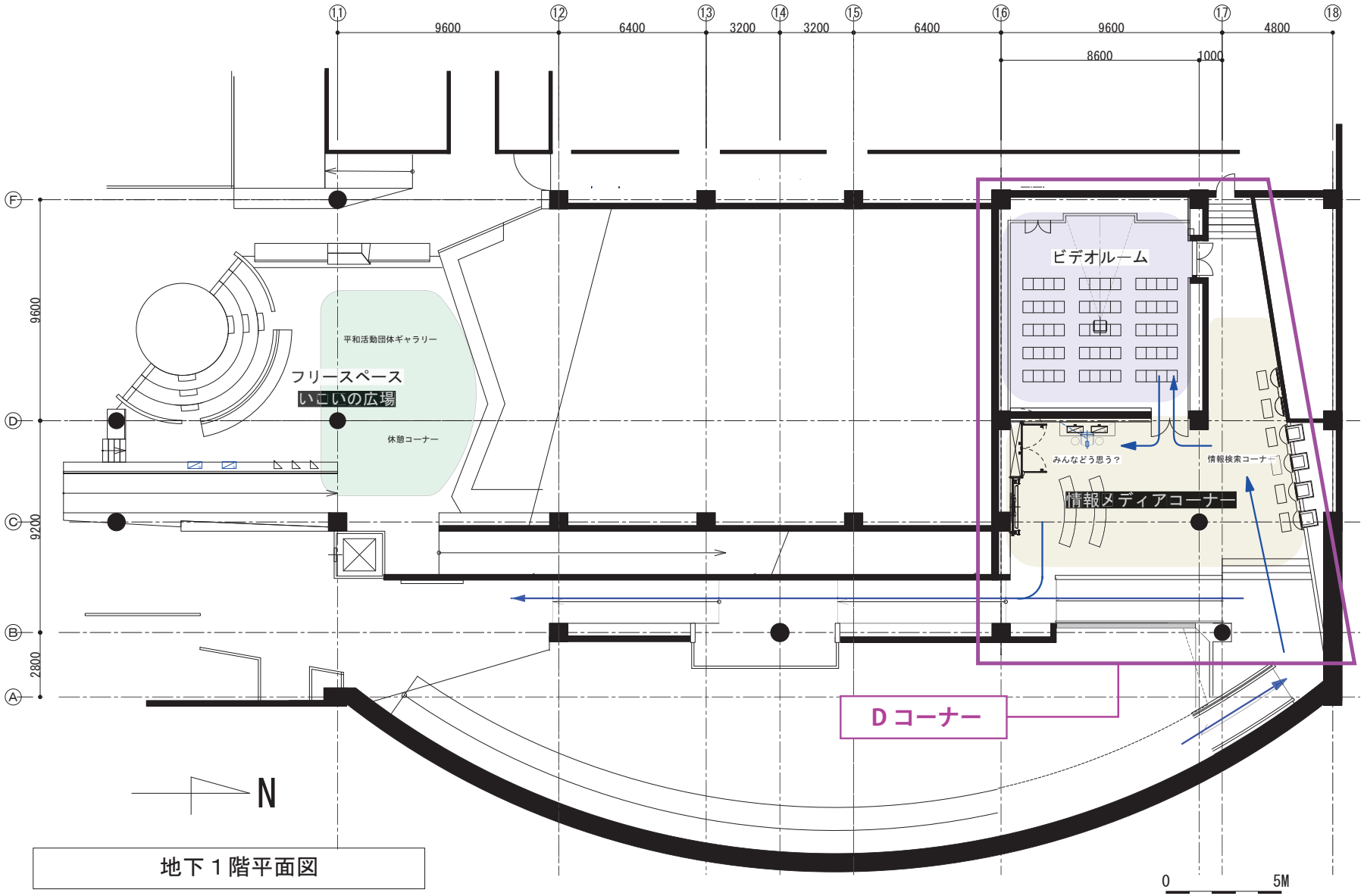
ゾーン	目　的	展示大項目	展示中項目	ねらい（展示大項目）	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C.核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	**5.長崎の歩み**	再現展示：爆心地とその周辺の復興ジオラマ	長崎の平和と核兵器廃絶に向けた取組みが過去から現在に至るまで絶え間なく続いていることを示すことで、長崎市民の平和と核兵器廃絶に対する願いに共感してもらい、未来へ受け継いでもらう。	—	ジオラマ模型造作・ターゲットVR	原爆投下から10 年後の爆心地付近のジオラマ
			5-1.焦土からの復興		5-1-1.被爆後の暮らし	グラフィック・写真・資料・映像	被爆後の長崎の映像など
					5-1-2.占領軍の駐屯と都市機能の復旧	グラフィック・写真	長崎に進駐した米軍に関する資料など
					5-1-3.慰霊祭の開催と平和祈念	グラフィック・写真・資料・映像	平和宣言に関する資料など
					5-1-4.長崎国際文化都市建設法	グラフィック・写真・資料	平和記念事業に関する資料など
			5-2.核兵器廃絶と平和への希求		5-2-1.原水爆禁止運動の始まり	グラフィック・写真・資料	原水禁運動の写真や被爆者健康手帳など
					5-2-2.広がる反核・平和運動	グラフィック・写真	反核・平和に向けた市民運動の写真など
					5-2-3.市民と行政の連携	グラフィック・写真	市民と長崎市の協働事業に関する資料など
					5-2-4.ナガサキから世界へ	グラフィック・写真・資料・映像	海外で開催された原爆展や被爆者講話の写真など
			5-3.被爆の実相の継承		5-3-1.被爆体験を残す	グラフィック・写真・資料	原爆資料保存委員会の収集資料など
					5-3-2.原爆被災復元運動	グラフィック・写真・資料	復元された町の地図など
					5-3-3.被爆遺構の保存と活用	グラフィック・写真	被爆建造物の写真など
					5-3-4.被爆の記憶を受け継ぐ	グラフィック・写真・映像	家族・交流証言講話の写真など
			長崎の被爆者などに関する展示			グラフィック・写真	戦後の被爆者に関する写真など
		平和は長崎から	現在の長崎	最後にあらためて「長崎を最後の被爆地に」のメッセージを共有してもらう。		グラフィック	現在の稲佐山からの風景写真など
			長崎を最後の被爆地に			グラフィック	「長崎を最後の被爆地に」多言語テキスト
D.ビデオルーム	来館者が自ら平和のためにできることを考え、行動するきっかけを提供する。	**情報メディアコーナー**	ビデオルーム	様々なメッセージ、被爆者の証言、平和団体の活動に触れることで、平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動したり発信したりするきっかけをつかむ。		大型映像	既存映像 外部入力：提供新規映像、講演にも活用
					みんなどう思う？	PC＋タッチペン、映像演出	来館者のメッセージを残す
					大型映像	—	私たちが作る平和（既存映像） 来館者メッセージ表示
					情報検索コーナー	PC検索	Q&A（更新型）
						PC検索	被爆証言アーカイブ
いこいの広場	—	**フリースペース**	平和活動団体ギャラリー	平和や核兵器廃絶に向けて発表の場。			
			休憩コーナー	—	近隣誘導サイン		
全　館		多言語解説	—	モバイル端末（QRコード読取）、音声解説で多言語や補足説明を取得できるシステムに項目を追加。海外の方へも展示内容の概略を伝達、展示の理解を深める。	QR展示解説	ＨＰにキャプション情報追加（HP追記）	既存：11カ国語対応
		音声解説	—		多言語音声展示解説	既存システムに追加	既存：12カ国語対応　音声ガイドシステム
		複製資料	—		—	レプリカ製作	—

■展示ゾーニング図　地下2階



地下２階平面図

■展示ゾーニング図　地下1階



地下１階平面図

既存ゾーン名

A.1945 年 8 月 9 日

【ゾーンの目的】

導入部。原爆投下により、長崎の街並みや人々の暮らしが一瞬で破壊されたことを伝える。

1.1945 年 8 月 9 日

【ねらい】

●1-2. 被爆前後の長崎

長崎に投下された原爆の威力や被害の惨状などを視覚的に理解したうえで、資料館の見学を始められるようにする。

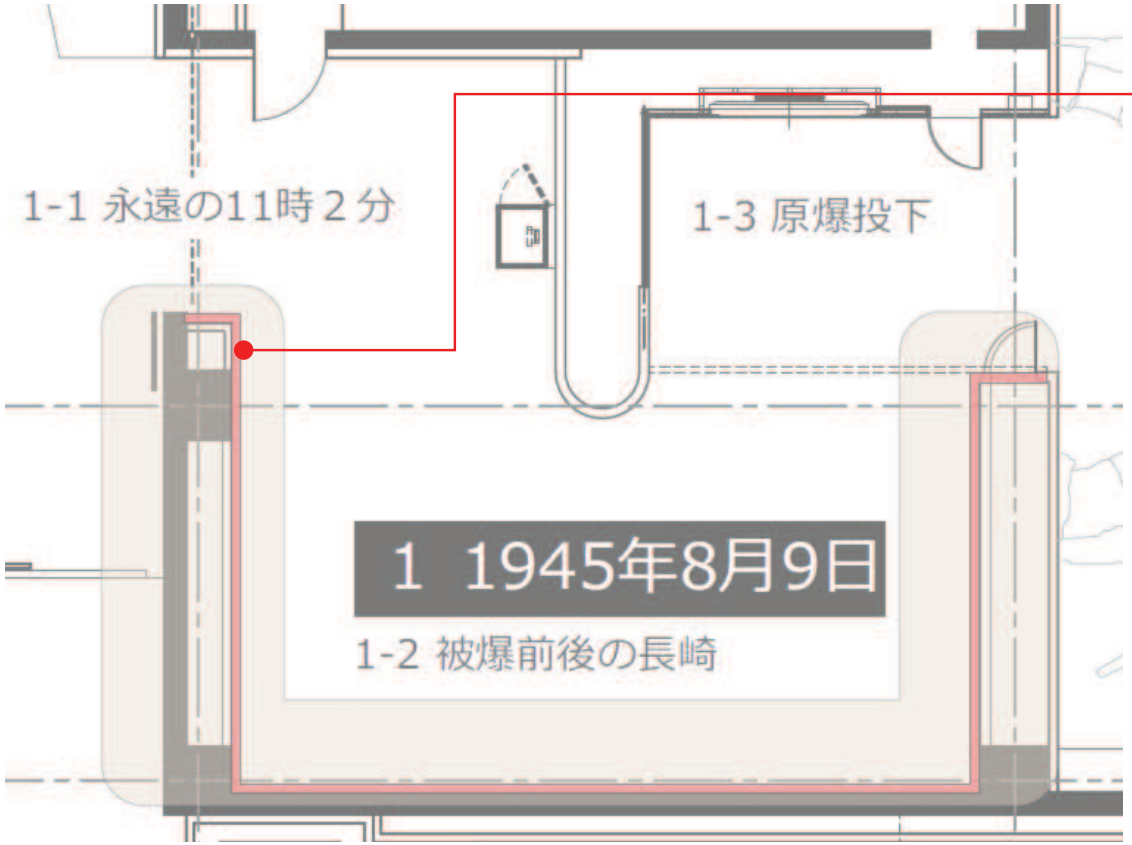
■1.1945 年 8 月 9 日

1-2. 被爆前後の長崎

【展示概要】

1-2. 被爆前後の長崎

被爆前後の様子が比較できる長崎の街並みの写真などを展示する。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・被爆前後の長崎

展示手法 / グラフィック・写真

（被爆前後の様子が比較できる写真など）

既存ゾーン名

B. 原爆による被害の実相

【ゾーンの目的】

被爆資料を通して、原爆被害の凄まじさや非人道性、惨状を理解してもらい、このような悲劇を二度と繰り返してはならないということを伝える。

2. 原爆による被害の実相

【ねらい】

●2-8. 放射線による被害

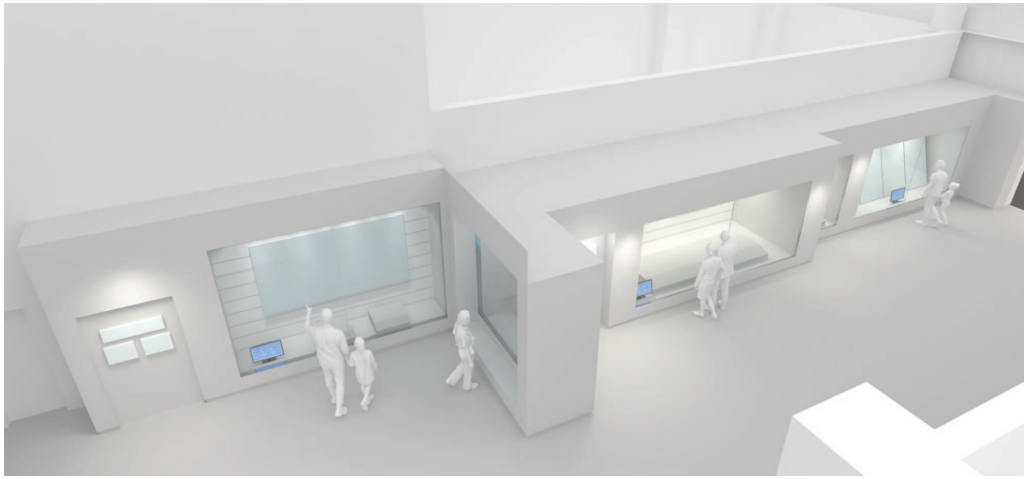
被爆者がいかに長く放射線に苦しめられ、またどのように向き合ってきたのか、医学の進歩による新しい知見も含め、わかりやすく伝えることで、原爆が単なる大きな爆弾ではなく、長期的な健康被害をもたらす特殊な爆弾であることを理解してもらう。

●2-9. 救援・救護活動

被爆直後の困難を極めた救援・救護と、その活動に従事した人々について知ってもらう。

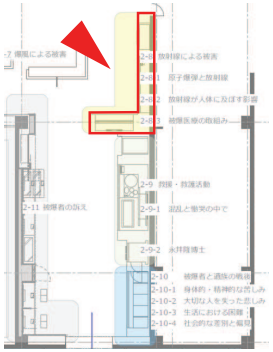
●2-10. 被爆者と遺族の戦後

被爆者や遺族のエピソードを通して、原爆が長期にわたって人々を苦しめ続けた事実を認識してもらう。



■2. 原爆による被害の実相

2-8　放射線による被害



【展示概要】

原爆が通常の爆弾と異なるのは、放射線を放出することである。放射線は目に見えないが、細胞内部を傷付け、人体に深刻な影響を与える。放射線による影響は、初期のものでは皮下出血や下痢、脱毛などに現れる。そして、被爆から 10 年が経過すると、がんや白血病、白内障などを引き起こす。放射線による健康被害は生涯にわたって続き、被爆者は自分や子どもが重篤な病気にかかるかもしれないという不安や恐怖に脅かされている。人体への影響も未だ科学的に解明されていない中で、生涯消えることがない被爆者の労苦を紹介する。

●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **2-8-1　原子爆弾と放射線**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  (放射線が細胞を傷付ける仕組みなど)
- **2-8-2　放射線が人体に及ぼす影響**
  展示手法 / グラフィック・写真・模型
  (原爆放射線による人体影響の生涯持続性など)

●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **2-8-3　被爆医療の取組み**
  展示手法 / グラフィック・写真
  (被爆者と接してきた医者の体験談など)

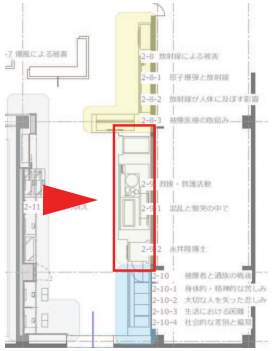
■2. 原爆による被害の実相

2-9　救援・救護活動

【展示概要】

・原爆投下後、多くの負傷者が救助を待っていたが、治療の拠点となるはずの長崎医科大学は壊滅し、多くの医師や看護師も被爆した。救護活動に従事できる人や治療に必要な薬はあまりにも少なく、街は瓦礫の山で鉄道や道路も寸断されていた。そのような状況の中、必死の救護活動が始まった。夜になると、惨状を伝え聞いた周りの町から救援隊が派遣され、傷付いた人々への治療を行った。しかし、当時は放射線の影響を知る由もなく、救援隊の人々は爆心地付近に残る強い放射線にさらされることになった。過酷な状況の中で行われた救援・救護活動の実態を伝える。

・永井隆博士は、助教授を務める長崎医科大学付属医院で被爆した。自らも重い傷を負いながらも、負傷者の救護や原爆障害の研究に献身的に取り組んだ姿を紹介する。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・2-9-1　混乱と慟哭の中で

展示手法 / グラフィック・写真・資料

(救護所で使用された医療器具など)

●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

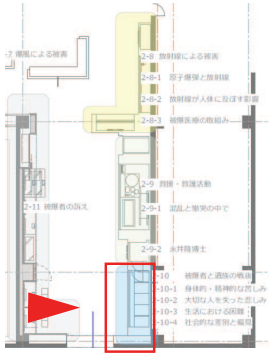
・2-9-2　永井隆博士

展示手法 / グラフィック・写真・資料

(永井隆博士の写真や遺品など)

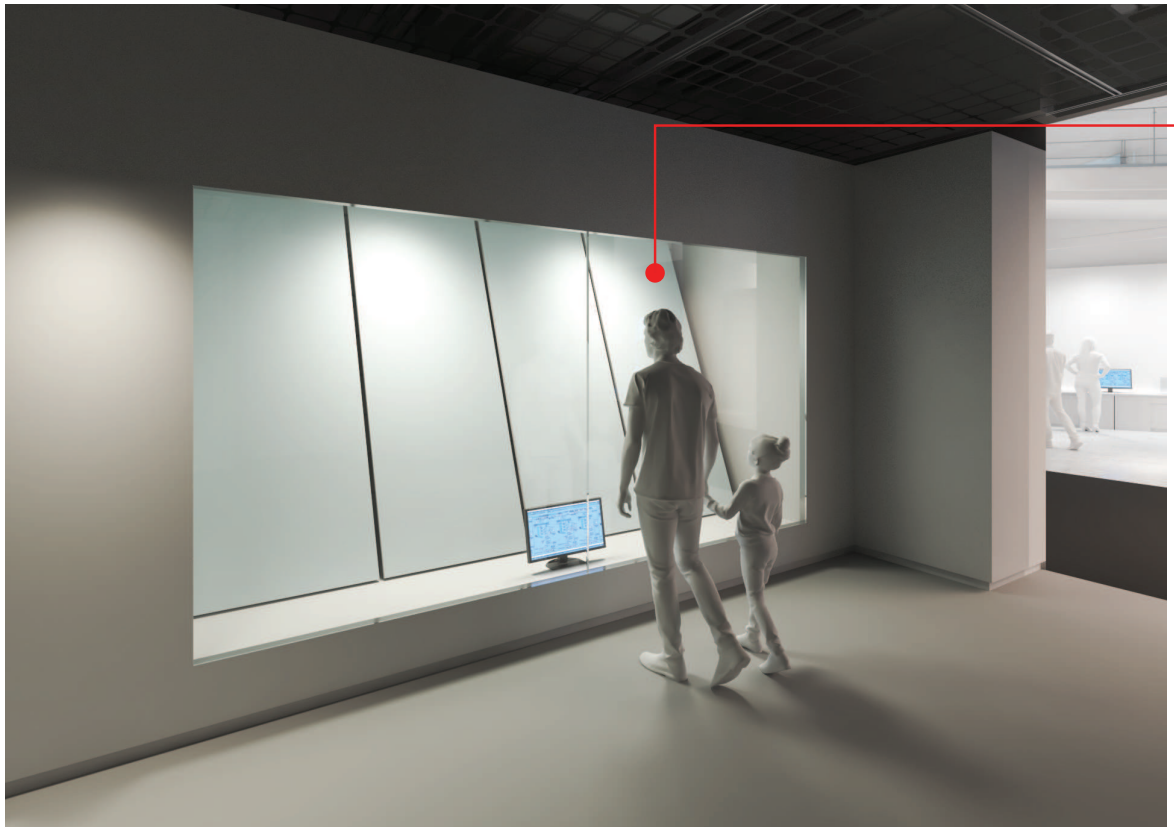
■2. 原爆による被害の実相

2-10　被爆者と遺族の戦後



【展示概要】

原爆の惨状から辛うじて生き延びた人々も、様々な苦難に直面した。大切な家族や友人を失った悲しみや、体と心に残った傷や病を抱えて生きていかなければならなかった。廃墟となった長崎でいかに生活を立て直し、自分たちの「生きた証」や被爆体験をどのように後世へ残そうとしたのか、資料とともに紹介する。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

2-10-1　身体的・精神的な苦しみ

展示手法 / ケース内斜壁グラフィック・写真・資料

（後遺症やトラウマを抱える人々など）

2-10-2　大切な人を失った悲しみ

展示手法 / ケース内斜壁グラフィック・写真・資料

（家族や友人を亡くした人々など）

2-10-3　生活における困難

展示手法 / ケース内斜壁グラフィック・写真・資料

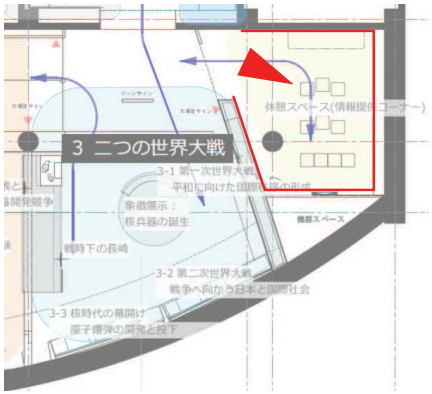
（原爆孤児・孤老、貧困に喘ぐ人々など）

2-10-4　社会的な差別と偏見

展示手法 / ケース内斜壁グラフィック・写真・資料

（就職や結婚の際に不当な扱いを受けた人々など）

休憩スペース(情報提供コーナー)



【概要】

博物館疲労に対処すると共に、次のコーナーに向けて心を整える。

・休憩スペース (情報提供コーナー)

Cゾーン（項目3~5）のダイジェスト映像など

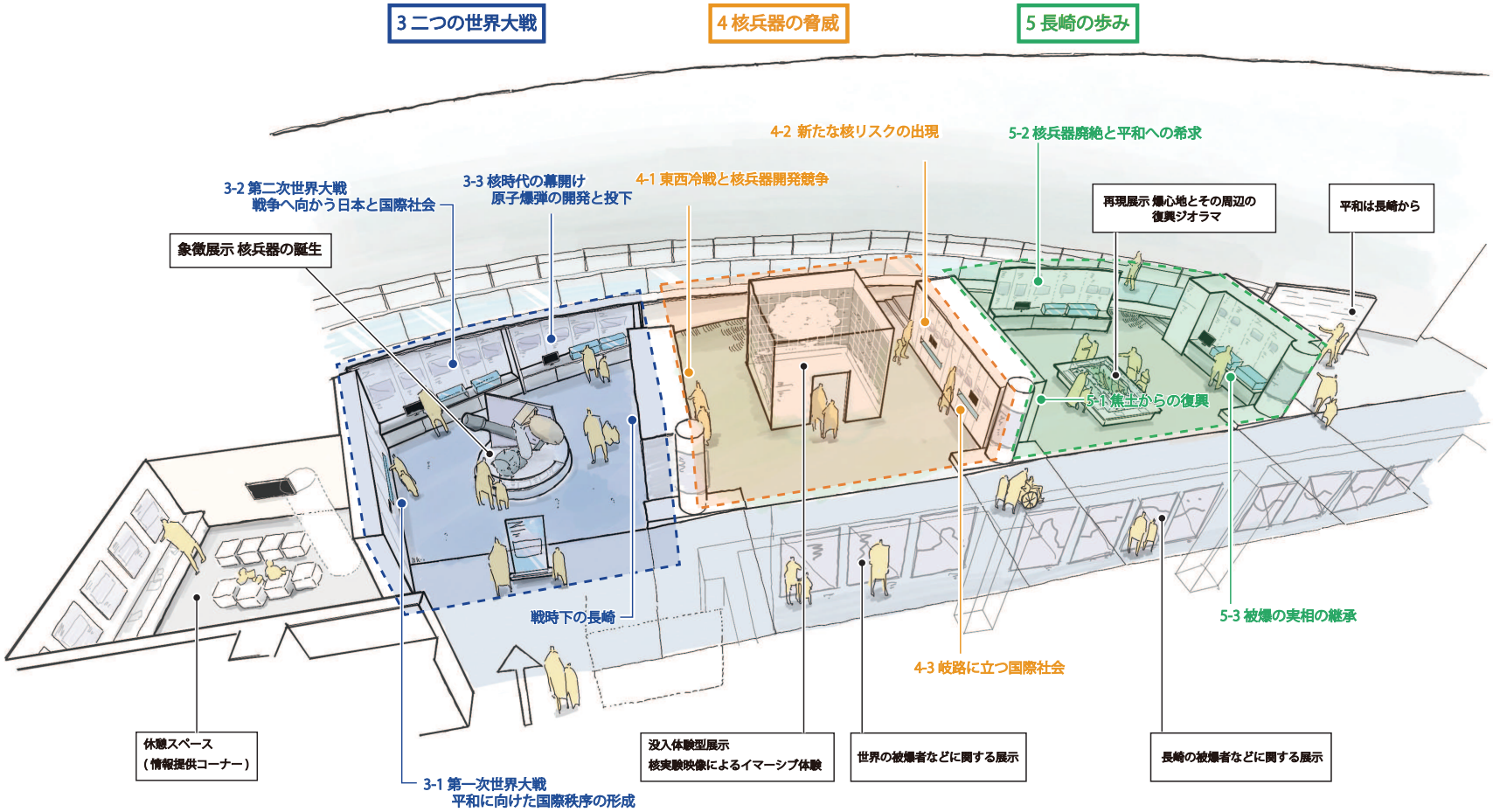
全体俯瞰図 (Cコーナー)

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。



既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

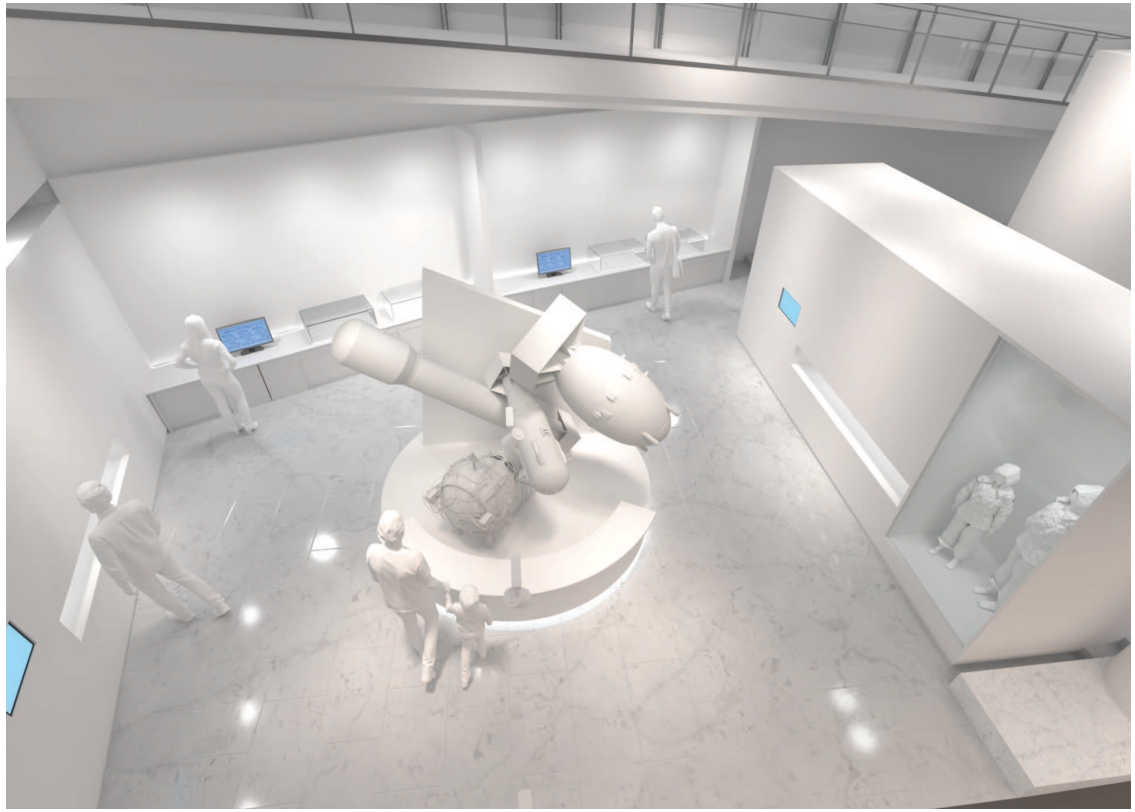
【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

3. 二つの世界大戦

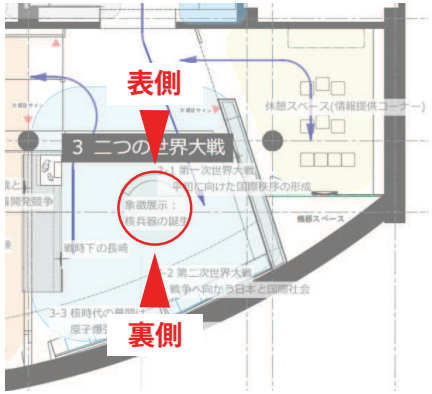
【ねらい】

歴史をきちんと見つめることが未来につながるという姿勢のもと原爆投下の背景にあった歴史や原爆の開発から投下に至るまでの道のりを客観的かつ多角的な視点からわかりやすく説明することで、戦争から遠くなった世代が戦争の愚かさや核兵器の非人道性について考えられるようにする。



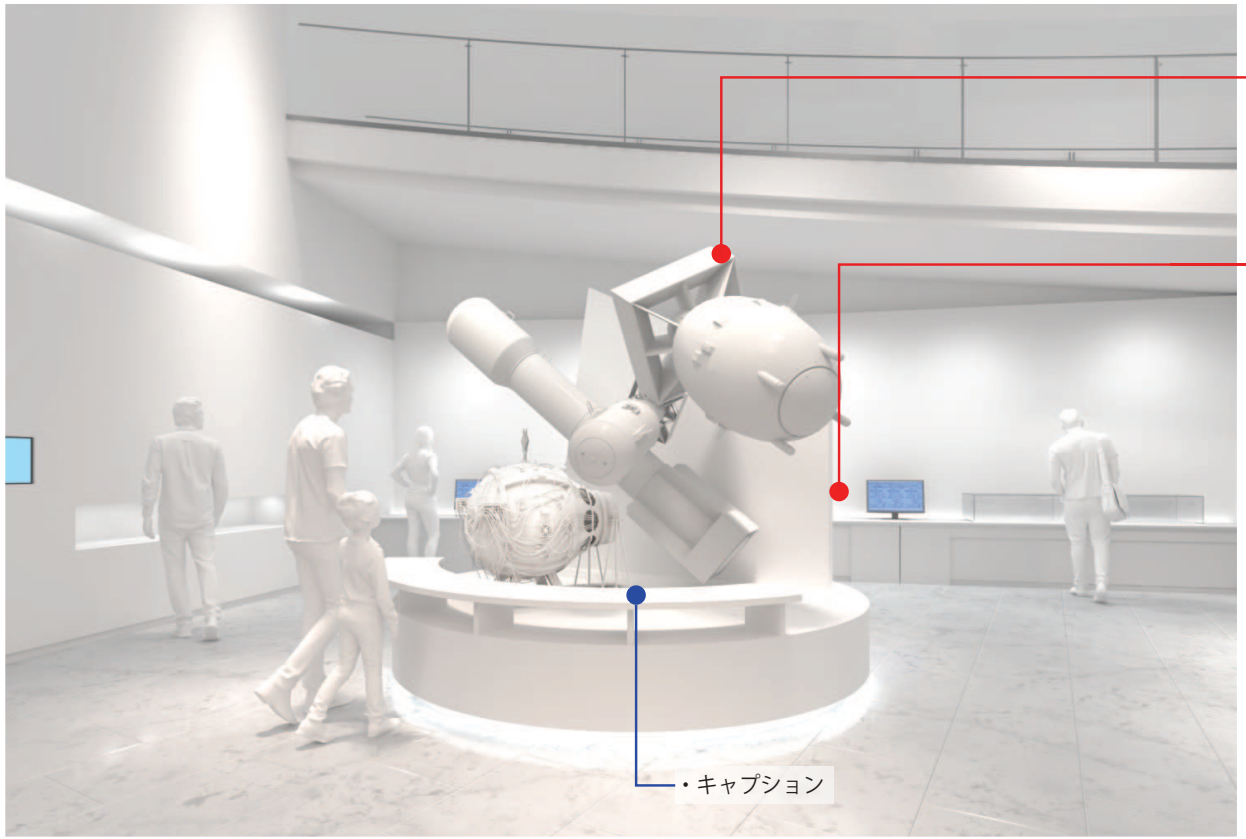
■3. 二つの世界大戦

象徴展示：核兵器の誕生



【展示概要】

20 世紀は科学技術が目覚ましい発展をとげ、人々の生活が豊かになった「科学技術の時代」であったが、二度にわたって世界大戦が起こった「戦争の時代」でもあった。そのため科学技術は兵器の開発にも利用され、最終的には大量破壊や殺戮を瞬時にもたらす大量破壊兵器を生み出すことになる。象徴展示では、大量破壊兵器の代表格といえる核兵器の原点となった四つの原子爆弾「シンマン、ガジェット、リトルボーイ、ファットマン」の模型を展示。その裏側では、核兵器が開発・使用された歴史的背景を科学技術の発展や兵器の開発、戦い方の変化といった観点から説明する。



・象徴展示(表)：四つの原子爆弾（模型）

展示手法/グラフィック・模型

(シンマン・ガジェット・リトルボーイ・ファットマンの模型)

・象徴展示(裏)：兵器の開発と戦い方の変容

展示手法/グラフィック・写真

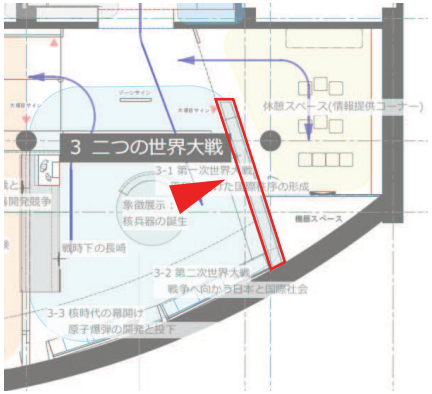
(毒ガスや戦車、飛行機の写真など)

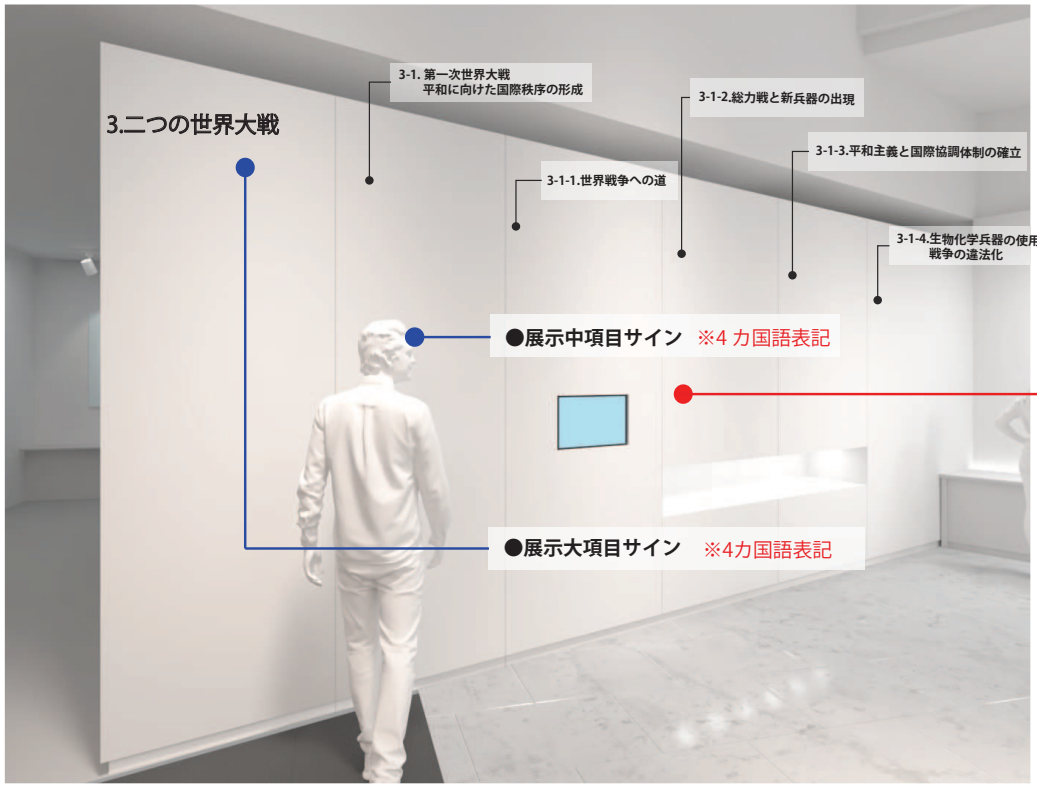
■3. 二つの世界大戦

3-1. 第一次世界大戦　平和に向けた国際秩序の形成

【展示概要】

19 世紀末の世界では、武力で植民地化・権益の奪取を行う帝国主義国家が現れた。そこでは勢力均衡により平和が保たれたが、民衆のナショナリズムや愛国心の高揚などを背景に国際社会はこれまでに経験したことのない世界戦争の道へと突き進んでいく。そして 1914 年に起こった第一次世界大戦は、軍隊だけでなく人的・物的資源の全てを戦争に動員する大規模な総力戦となり、次々と新兵器が開発・投入され、かつてない規模の犠牲を出した。こうした戦争の惨禍は、強力な平和思想をもたらし、戦後の国際社会では国際連盟や軍縮などによって戦争を防ぎ、平和を目指す国際協調体制が確立。さらに生物化学兵器の使用を禁止し、戦争を違法化する国際条約がつくられた。





●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・3-1-1.世界戦争への道

展示手法 / グラフィック・写真

（帝国主義やナショナリズムに関する資料など）

・3-1-2.総力戦と新兵器の出現

展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像

（毒ガスに関する写真やガスマスクなど）

・3-1-3.平和主義と国際協調体制の確立

展示手法 / グラフィック・写真

（パリ講和会議や国際連盟、
ワシントン会議に関する資料など）

・3-1-4.生物化学兵器の使用禁止と戦争の違法化

展示手法 / グラフィック・写真・資料

(ジュネーブ議定書やパリ不戦条約に
関する資料など)

※①資料展示や映像は必要に応じて配置

(展示ケース :UV カットフィルム加工)

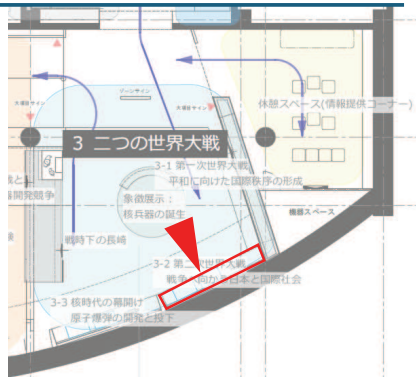
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

■3. 二つの世界大戦

3-2. 第二次世界大戦　戦争へ向かう日本と国際社会

【展示概要】

第一次世界大戦後の国際協調体制は、1930 年代に入ると大きく揺らいでいった。1929 年の世界恐慌以降、日本やドイツ、イタリアなどから国際社会の平和を脅かす動きが出てくる。日本では深刻な経済危機や政党政治の腐敗などを背景に軍部が台頭。満州事変、国際連盟脱退、日中戦争と戦後の国際秩序から逸脱していく。さらにドイツとイタリアも日本の後に続き、ファシズムや軍国主義による政治を進める国々と民主主義を守ろうとする国々との対立は徐々に深化。国際社会は二度目の世界大戦へと向かっていった。



●展示小項目グラフィック

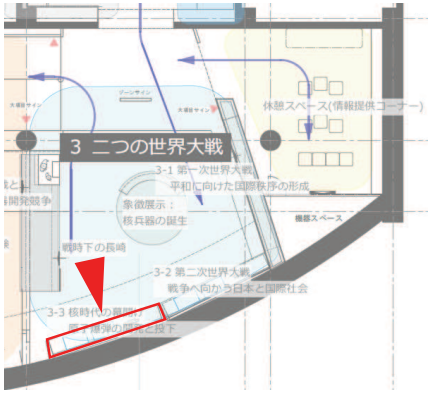
※タイトル日英表記

- **3-2-1.満州事変と軍部の台頭**
  展示手法/グラフィック・写真・資料・映像
  (関東軍や満州へ渡った人々に関する資料など)
- **3-2-2. 国際連盟からの脱退**
  展示手法/グラフィック・写真
  (日本が国際連盟を脱退する際の写真など)
- **3-2-3. 日中戦争の長期化**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像
  (日中戦争に従軍した兵士の装備品など)
- **3-2-4. 第二次世界大戦の勃発**
  展示手法 / グラフィック・写真
  (ヨーロッパ戦線の写真など)
- **3-2-5. アジア・太平洋戦争の開戦**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像
  (戦線の展開に関する地図など)

※①資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース :UV カットフィルム加工)
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

■3. 二つの世界大戦

3-3. 核時代の幕開け　原子爆弾の開発と投下



【展示概要】

第二次世界大戦の開戦により世界が戦争に飲み込まれていく中で各国は核兵器の開発に乗り出し、第一次世界大戦後の国際秩序は完全に崩壊。アメリカも無差別爆撃や原爆の開発など国際法や人道に反する行為を実施していくことになる。そして広島・長崎に原爆が投下。日本の降伏により第二次世界大戦は終結したが、「核時代」は新たに幕を開け、世界は「冷たい戦争」に突入していく。

●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **3-3-1.原爆の開発と実用化**
  展示手法/グラフィック・写真・資料・映像
  (モード委員会報告書やトリニタイトなど)
- **3-3-2.原爆の使用決定と科学者たちの葛藤**
  展示手法/グラフィック・写真・資料
  (フランク・レポートやシラードの請願書など)
- **3-3-3.広島・長崎への原爆投下**
  展示手法/グラフィック・写真・資料
  (原爆投下命令書など)
- **3-3-4.日本の降伏と終戦**
  展示手法/グラフィック・写真
  (終戦の日の写真など)

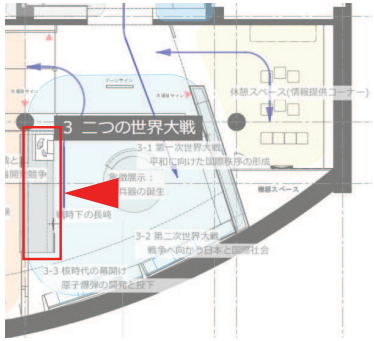
※①資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース :UV カットフィルム加工)
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

■3. 二つの世界大戦

戦時下の長崎

【展示概要】

総力戦体制下にあった長崎では、兵士だけでなく、戦場の後方にあたる銃後の国民も戦った。とりわけ、長崎市は軍需産業都市であり、魚雷や戦艦などもつくられていた。開戦当初、長崎市民にとって戦争の脅威は遠い場所にあったが、戦局の悪化につれて空襲が激化し、8 月 9 日を迎えることになる。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **1. 長崎と浦上**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  （被爆前の長崎の映像など）
- **2. 軍需産業都市**
  展示手法 / グラフィック・写真・模型・資料
  （戦艦武蔵や魚雷の模型など）
- **3. 長崎から戦場へ**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （現役兵証書や寄せ書き日の丸など）
- **4. 勤労動員の日々**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （勤労動員に従事した学生の日記など）
- **5. 銃後の暮らし**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （千人針や慰問袋など）
- **6. 空襲と疎開**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （防空頭巾や焼夷弾の筒など）

※①資料展示や映像は必要に応じて配置
（展示ケース :UV カットフィルム加工）
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

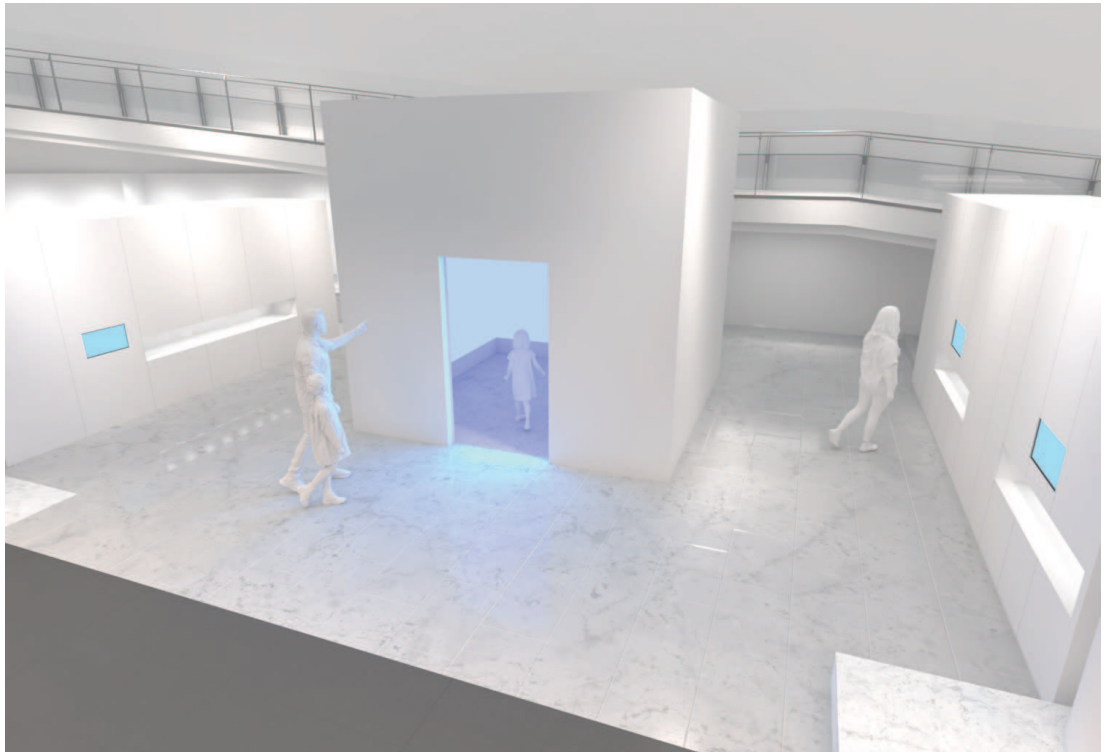
【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

4. 核兵器の脅威

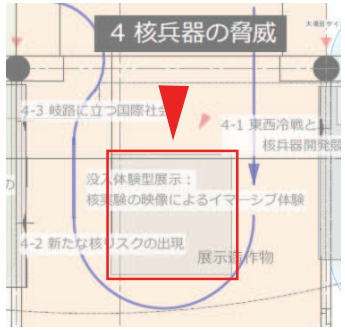
【ねらい】

核兵器の開発をめぐる複雑な歴史や国際情勢、そして近年、核兵器使用の危険性が高まっていることを伝えることで、誰もが核兵器が存在する世界に生きる当事者であると自覚してもらうとともに、被爆地をはじめ、世界の多くの人が核兵器廃絶のための活動に取り組んでいることを知ってもらう。



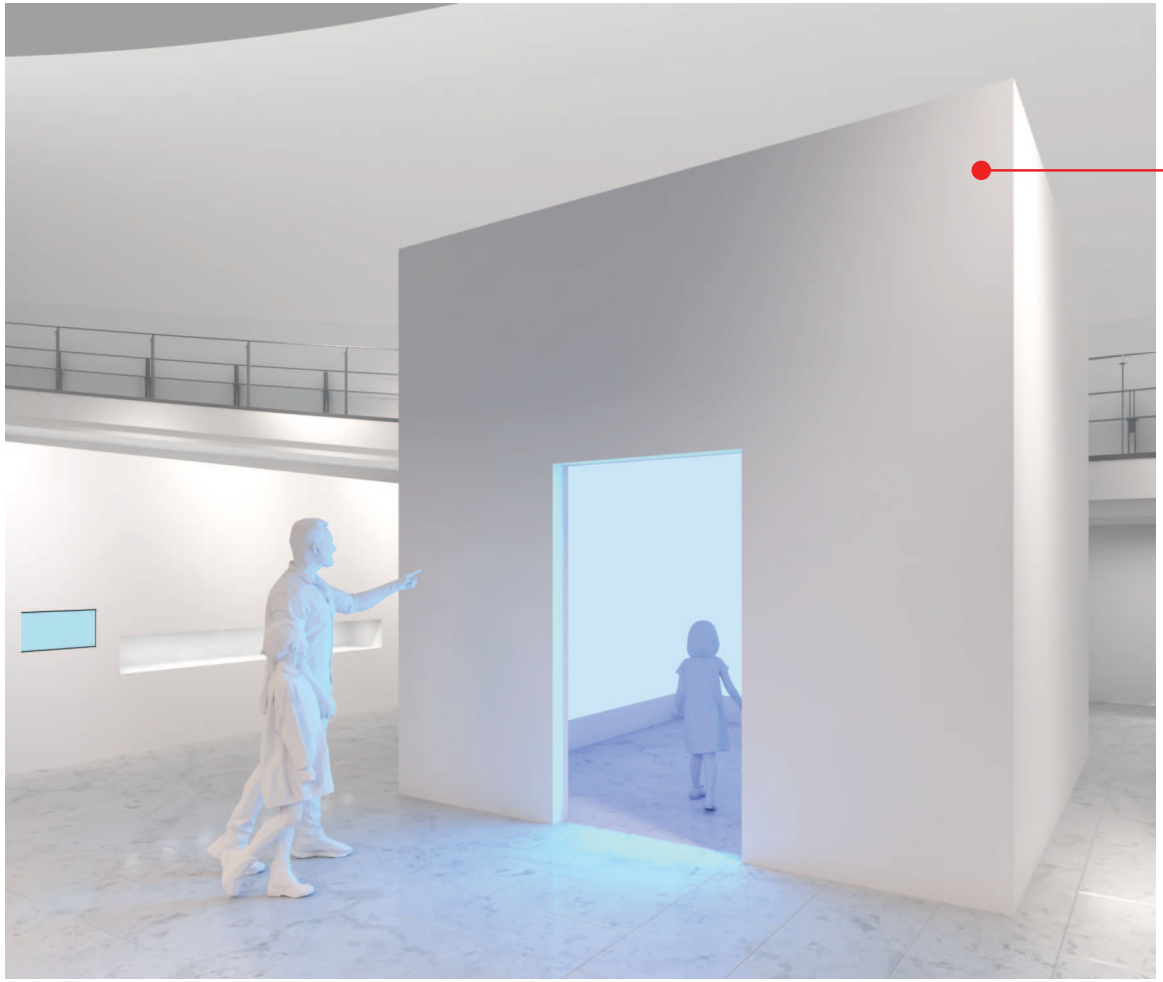
■4. 核兵器の脅威

没入体験型展示：核実験映像によるイマーシブ体験



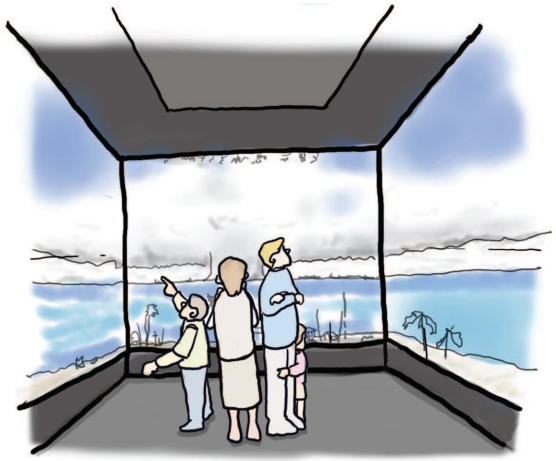
【展示概要】

1945 年以降、2000 回を超える核実験が行われた。多くの人々が被ばくし、現在でも深刻な健康被害を訴えている。また、地球環境にも甚大な被害を与えた。イマーシブ体験を通して、核実験が及ぼす影響を身近なものとしてとらえ、核兵器の問題に自ら向き合うための意識を涵養する。



・没入体験型展示：核実験の映像を用いたイマーシブ体験

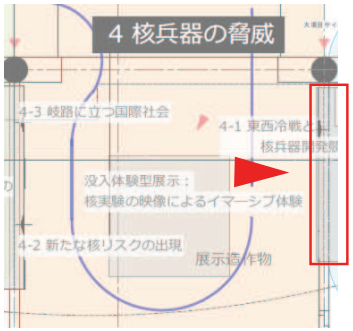
展示手法 / 体験型映像



・内部映像イメージ

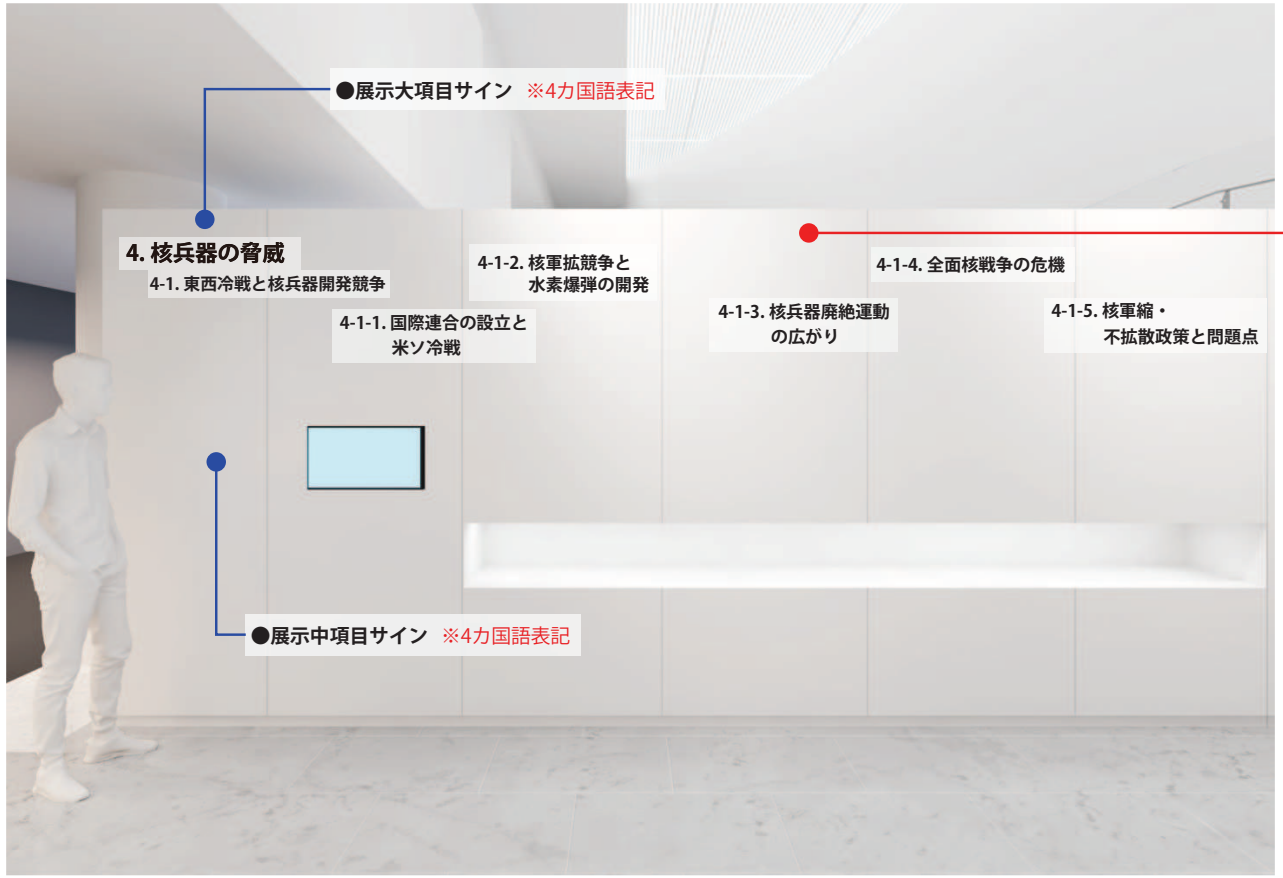
■4. 核兵器の脅威

4-1. 東西冷戦と核兵器開発競争



【展示概要】

第二次世界大戦後、世界の平和と安全の維持を目的に国際連合が発足した。一方で、米ソの対立は深刻化し、核軍拡競争がエスカレートしていく。世界各地で核実験が実施される中、第五福竜丸事件が起こり、核実験に反対する市民運動が広がる。政治レベルでは、キューバ危機により核戦争の危機に直面した。核戦争になれば、地球全体を破滅させることに気づき、核兵器を使用しないという認識が生まれ、核軍縮や核不拡散条約へとつながった。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **4-1-1. 国際連合の設立と米ソ冷戦**

展示手法 / グラフィック・写真・映像

（鉄のカーテン演説の映像など）

- **4-1-2. 核軍拡競争と水素爆弾の開発**

展示手法 / グラフィック・写真・模型

（世界終末時計や核ミサイルの模型など）

- **4-1-3. 核兵器廃絶運動の広がり**

展示手法 / グラフィック・写真・資料

（第五福竜丸事件に関する資料など）

- **4-1-4. 全面核戦争の危機**

展示手法 / グラフィック・写真・模型

（キューバ危機に関する資料など）

- **4-1-5. 核軍縮・不拡散政策と問題点**

展示手法 / グラフィック・写真

（核兵器不拡散条約への署名時の写真など）

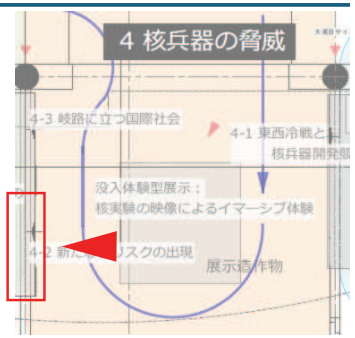
※①資料展示や映像は必要に応じて配置

展示ケース :UV カットフィルム加工

②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

■4. 核兵器の脅威

4-2. 新たな核リスクの出現



【展示概要】

冷戦の終結と旧ソ連の崩壊に伴う核兵器開発技術の流出や、既存の核軍縮・不拡散政策に対する反発などを背景として、アジアと中東において核拡散が進み、さらには核テロのリスクが台頭した。一方で、核軍縮・核兵器廃絶に向けて努力が重ねられた。

●展示小項目グラフィック

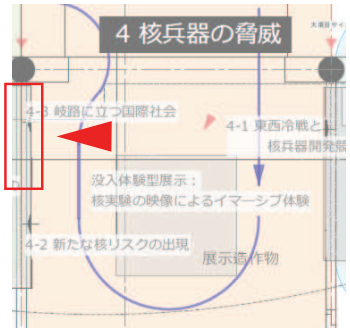
※タイトル日英表記

- **4-2-1. 冷戦の終結と核軍縮の前進**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  （ベルリンの壁崩壊の映像や包括的核実験禁止条約に関する写真など）
- **4-2-2. 核兵器開発技術の流出**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （”核の闇市場”に関する図表など）
- **4-2-3. アジアと中東における核拡散**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  （インドやパキスタン、北朝鮮の核実験に関する写真など）
- **4-2-4. 核テロの危険性と対策**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （アメリカ同時多発テロ事件やプラハ演説の写真など）

※①資料展示や映像は必要に応じて配置
展示ケース :UV カットフィルム加工
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

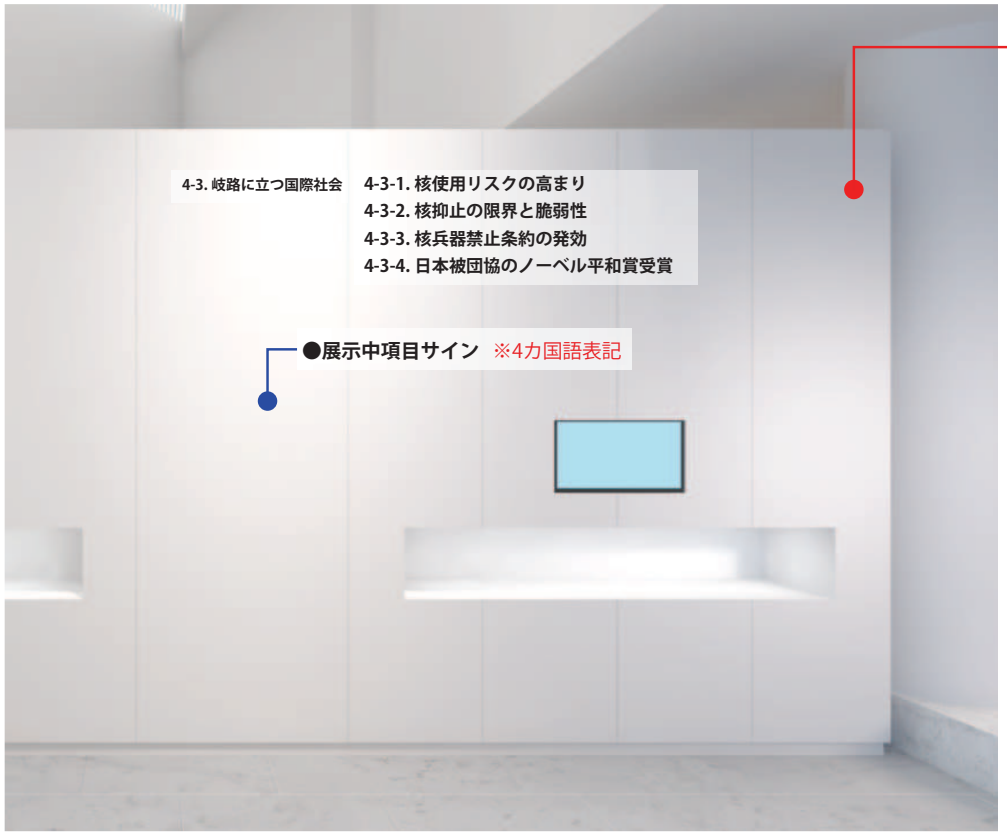
■4. 核兵器の脅威

4-3. 岐路に立つ国際社会



【展示概要】

ポスト冷戦期も過ぎ、大国間の核軍拡競争が再燃する。加えて、既存の国際秩序を変更しようという動きや、武力侵攻に核の脅しを用いる動きが現れ、核兵器使用のリスクが急速に高まっている。一方で、核兵器の非人道性に注目が集まり、核兵器禁止に向けた国際気運が増大している。2021 年に核兵器禁止条約が発効し、2024 年に日本被団協が「核兵器なき世界の実現」に努力したとしてノーベル平和賞を受賞した。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **4-3-1. 核使用リスクの高まり**
  展示手法 / グラフィック・写真
  （核兵器をめぐる現代の国際情勢に関する資料など）
- **4-3-2. 核抑止の限界と脆弱性**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  （新興技術と核兵器制御システムに関する資料など）
- **4-3-3. 核兵器禁止条約の発効**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （核兵器禁止条約の発効時の写真など）
- **4-3-4.日本被団協のノーベル平和賞受賞**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像・資料
  （ノーベル平和賞受賞に関する写真など）

※①資料展示や映像は必要に応じて配置
展示ケース :UV カットフィルム加工
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

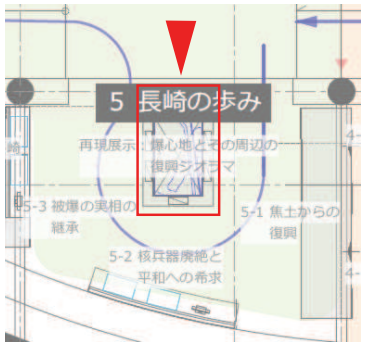
5. 長崎の歩み

【ねらい】

長崎の平和と核兵器廃絶に向けた取組みが過去から現在に至るまで絶え間なく続いていることを示すことで、長崎市民の平和と核兵器廃絶に対する願いに共感してもらい、未来へ受け継いでもらう。

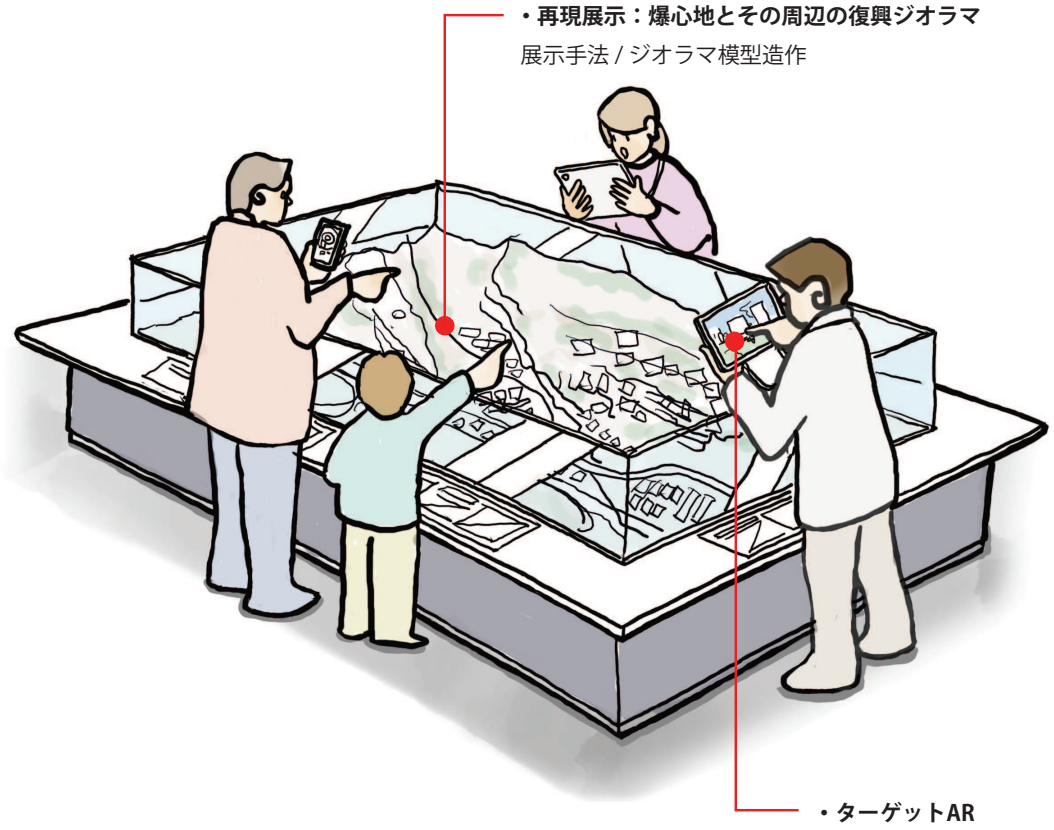
■5. 長崎の歩み

再現展示：爆心地とその周辺の復興ジオラマ



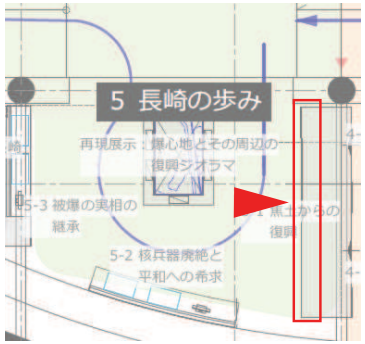
【展示概要】

平和祈念像や長崎国際文化会館が完成した 1955 年の爆心地周辺をジオラマで再現することで被爆から 10 年後の街の様子を知る。あわせてターゲット AR で詳細情報を提供するとともに、現在の爆心地周辺を表示することで、焦土と化した長崎の街がどれほどの復興を遂げたのか知ってもらう。



■5. 長崎の歩み

5-1. 焦土からの復興



【展示概要】

長崎の街は原爆で焼け野原となり、「70 年は草木も生えない」と言われたが、9 月に入るとかすかに草木が芽生え、人々は生きる希望を見出した。やがて人々は、壊れた建物の木材などを集めて、寝起きができるほどの小屋を建て、街は少しずつ活気を取り戻していった。原爆により恐ろしい体験をした長崎市民は、平和に対する強い願いから「平和は長崎から」を合言葉に「恒久平和の理想」を達成する国際文化都市を目指してまちづくりを始めていった。

●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **5-1-1. 被爆後の暮らし**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像
  (被爆後の長崎の映像など)
- **5-1-2. 占領軍の駐屯と都市機能の復旧**
  展示手法 / グラフィック・写真
  (長崎に進駐した米軍に関する資料など)
- **5-1-3. 慰霊祭の開催と平和祈念**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像
  (平和宣言に関する資料など)
- **5-1-4. 長崎国際文化都市建設法**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  (平和記念事業に関する資料など)

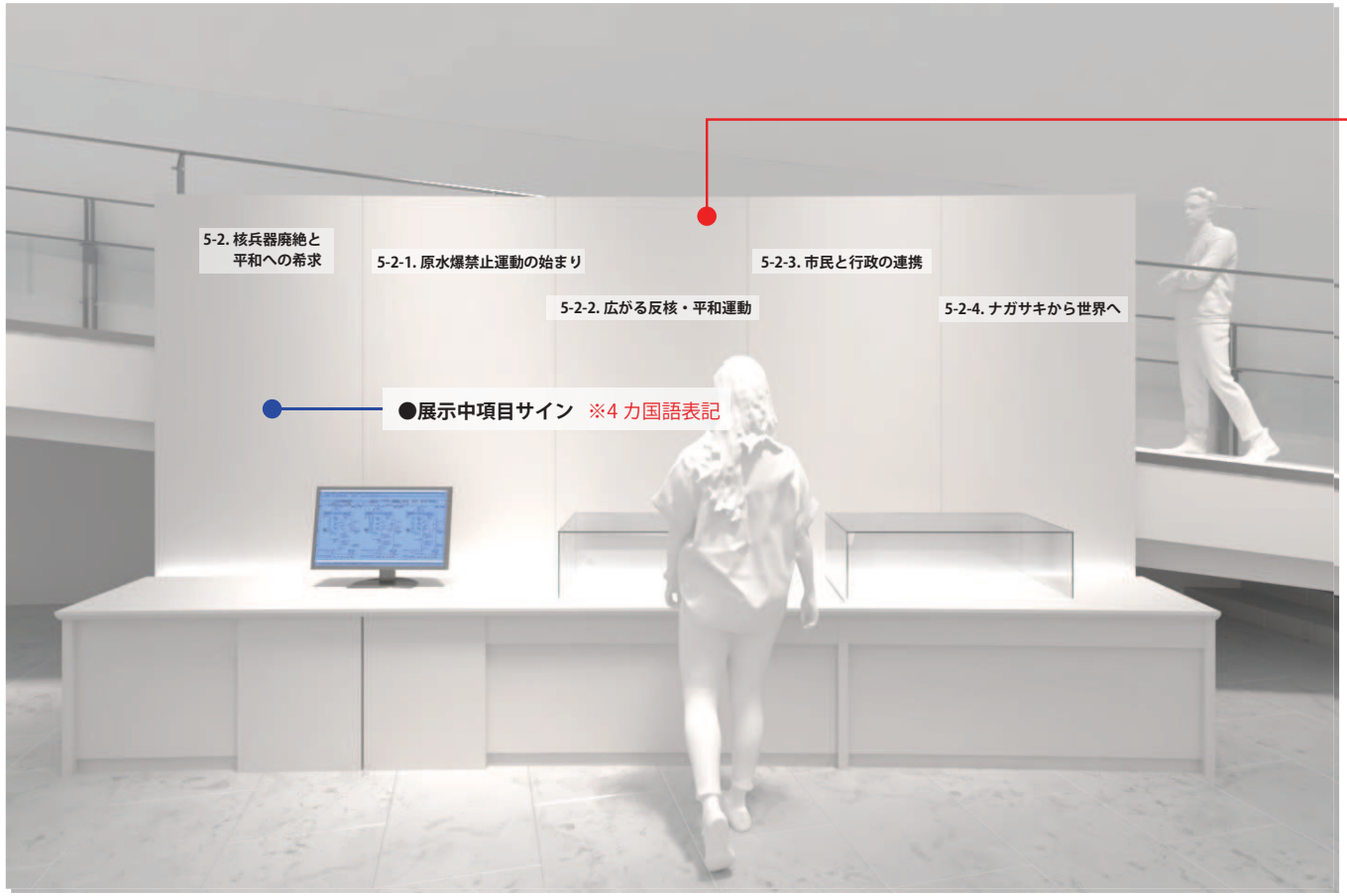
※①資料展示や映像は必要に応じて配置
展示ケース :UV フィルム加工
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

■5. 長崎の歩み

5-2. 核兵器廃絶と平和への希求

【展示概要】

被爆から数年間はGHQのプレスコードにより原爆被害の実態が覆い隠されたため、被爆者は沈黙を強いられた。しかし、1954年の第五福竜丸事件をきっかけに原水爆禁止と被爆者援護を求める運動が起こり、長崎の被爆者は被爆体験と被爆者の実情を訴えることで運動に参加していった。こうした平和や核兵器廃絶を求める動きは市民や行政にも広がり、以来、長崎の人々は原爆被爆都市の使命として、核兵器の脅威を世界に訴え、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて努力を続けている。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **5-2-1. 原水爆禁止運動の始まり**

展示手法 / グラフィック・写真・資料

（原水禁運動の写真や被爆者健康手帳など）

- **5-2-2. 広がる反核・平和運動**

展示手法 / グラフィック・写真

（反核・平和に向けた市民運動の写真など）

- **5-2-3. 市民と行政の連携**

展示手法 / グラフィック・写真

（市民と長崎市の協働事業に関する資料など）

- **5-2-4. ナガサキから世界へ**

展示手法 / グラフィック・写真・資料・映像

（海外で開催された原爆展や被爆者講話の写真など）

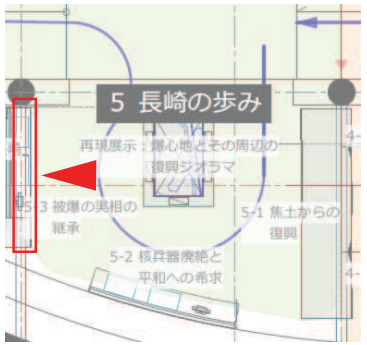
※①資料展示や映像は必要に応じて配置

展示ケース :UV フィルム加工

②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する

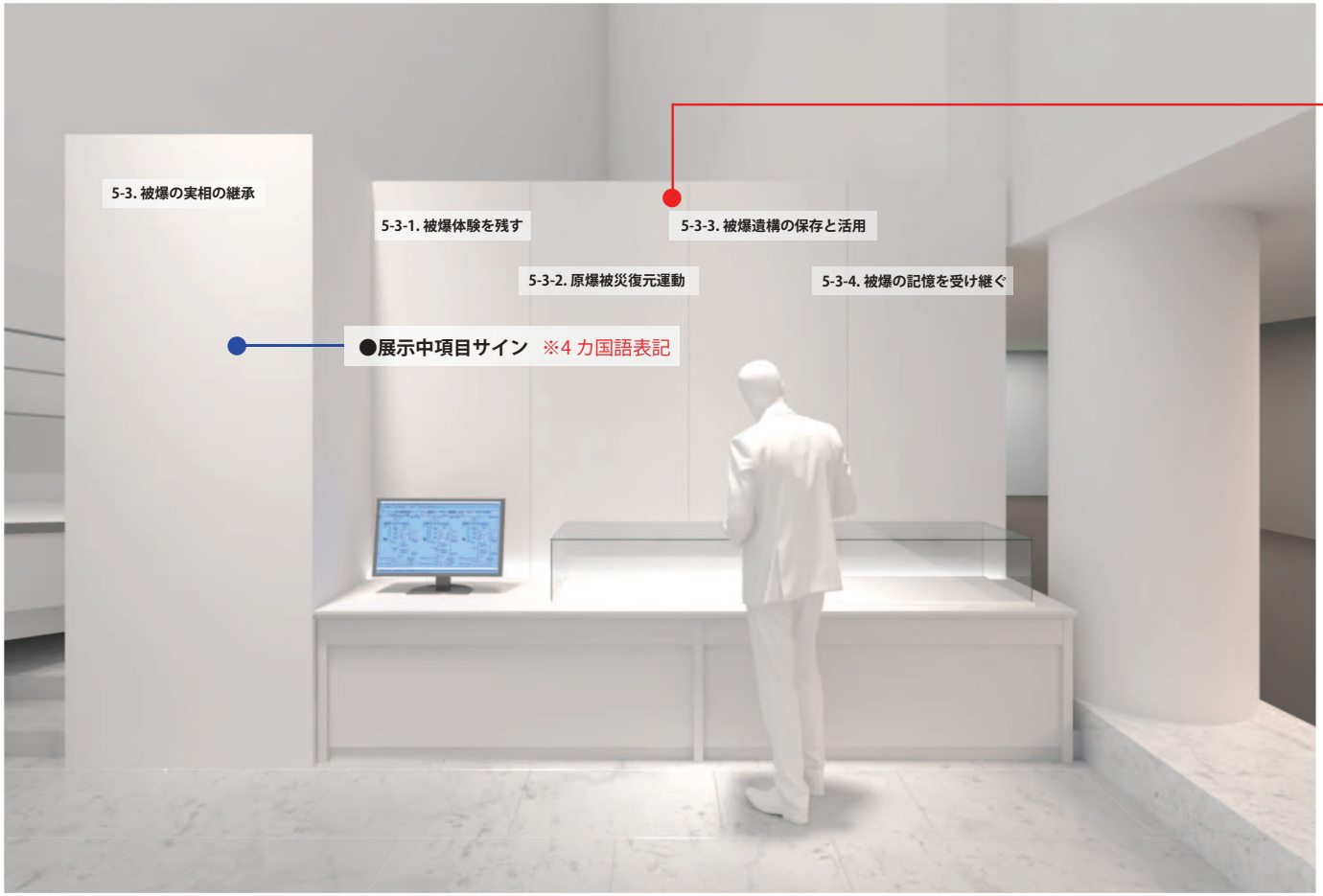
■5. 長崎の歩み

5-3. 被爆の実相の継承



【展示概要】

長崎市では、街の復興が進み、市内の瓦礫が片付けられていく中で、貴重な被爆資料が撤去されていく状況に懸念が高まり、1949 年より被爆資料の収集・保存活動が始まった。さらに原水爆禁止運動の盛り上がりや戦争を知らない世代の増加等を背景として、様々な形で被爆体験を記録し、後世へ残そうとする動きが活発になっていった。こうした被爆者や遺族の活動は若い世代に受け継がれ、現在に至っている。

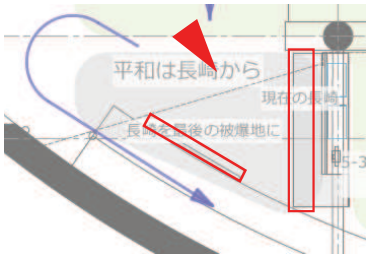


●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- **5-3-1. 被爆体験を残す**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （原爆資料保存委員会の収集資料など）
- **5-3-2. 原爆被災復元運動**
  展示手法 / グラフィック・写真・資料
  （復元された町の地図など）
- **5-3-3. 被爆遺構の保存と活用**
  展示手法 / グラフィック・写真
  （被爆建造物の写真など）
- **5-3-4. 被爆の記憶を受け継ぐ**
  展示手法 / グラフィック・写真・映像
  （家族・交流証言講話の写真など）

※①資料展示や映像は必要に応じて配置
展示ケース :UV フィルム加工
②多言語に関しては QR コード等で対応を検討する



既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

平和は長崎から

【ねらい】

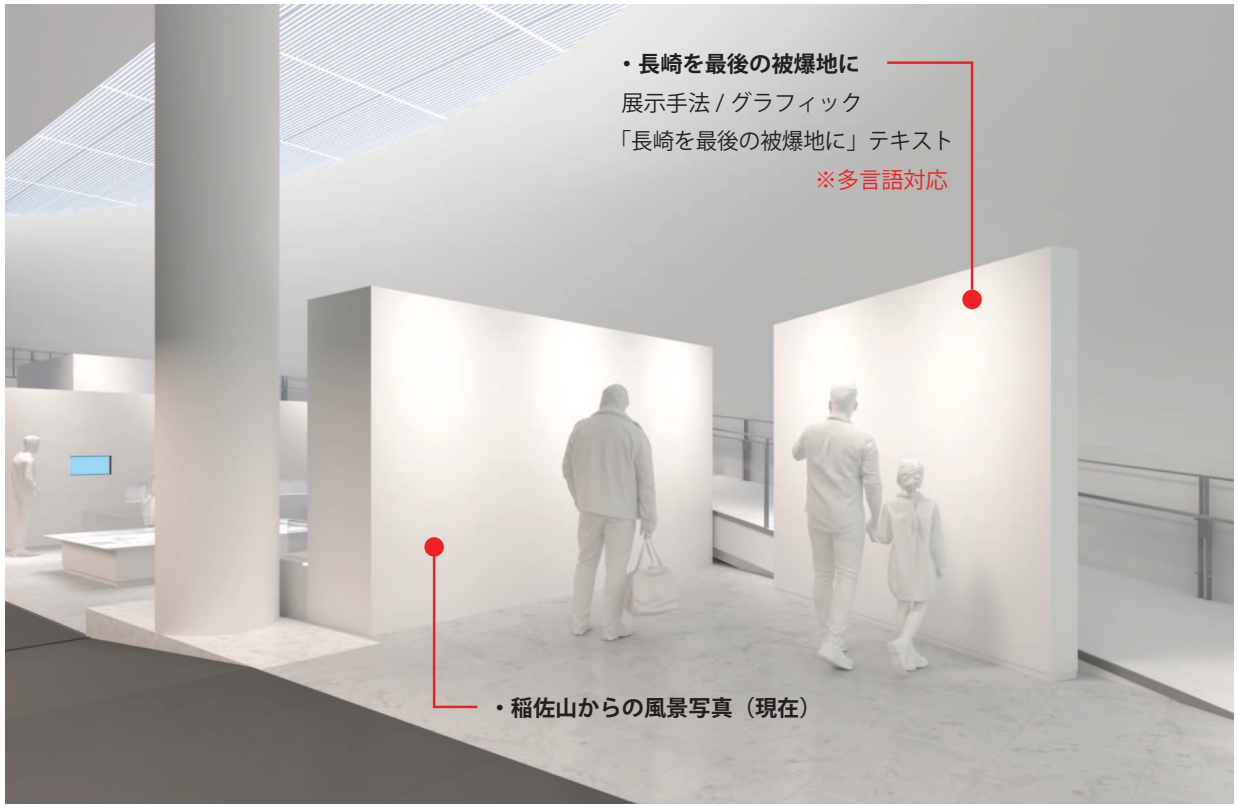
最後にあらためて「長崎を最後の被爆地に」のメッセージを共有してもらう。

■平和は長崎から

長崎を最後の被爆地に

【展示概要】

展示室の最後に「長崎を最後の被爆地に」を世界各国の言語で表示することで心に刻んでいただく。



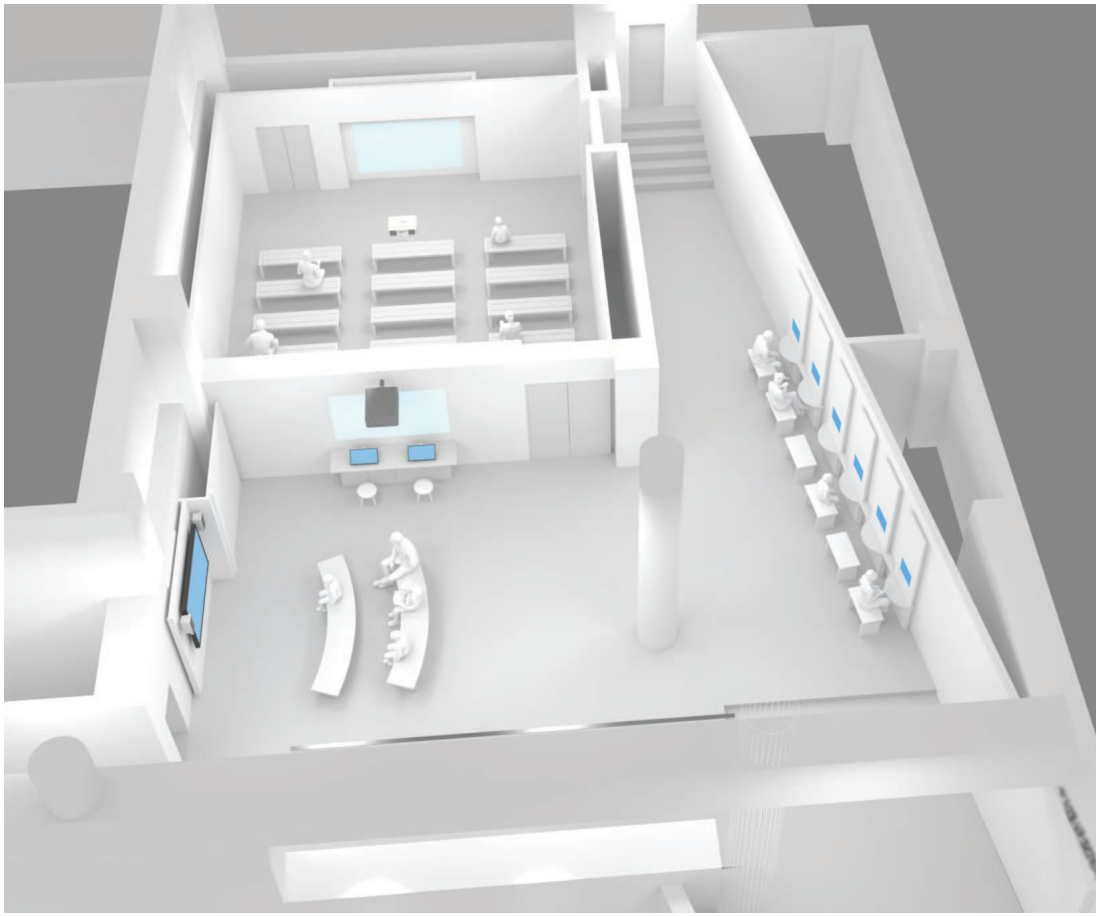
既存ゾーン名
D. ビデオルーム
【ゾーンの目的】
来館者が自ら平和のためにできることを考え、行動するきっかけを提供する。

情報メディアコーナー
【ねらい】
常設展示や企画展を見て平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動できる心を育む。

●ビデオルーム

●情報メディアコーナー

様々なメッセージ、被爆者の証言、平和団体の活動に触れることで、平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動したり、発信したりするきっかけをつかむ。



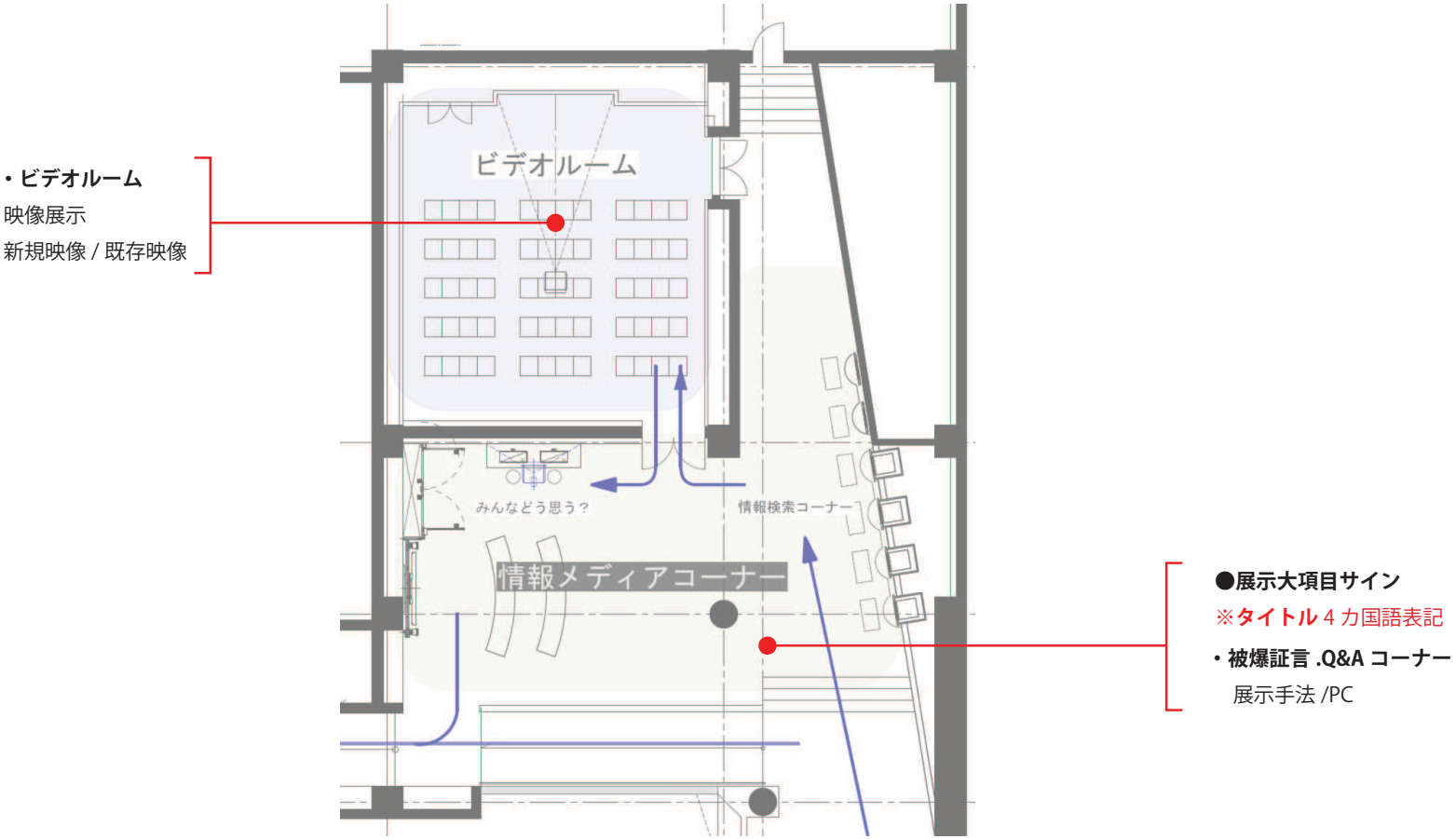
■情報メディアコーナー

ビデオルーム / 情報メディアコーナー

【展示概要】

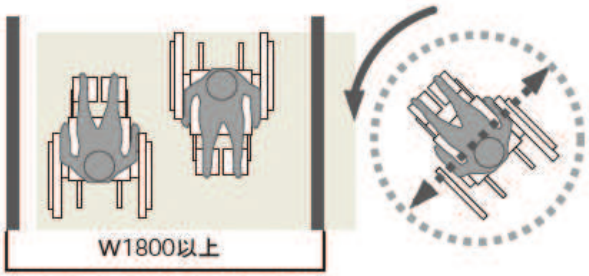
- **ビデオルーム**
- **情報メディアコーナー**

来館者がメッセージを残し、平和に対する想いを共有できるスペースを設置する。



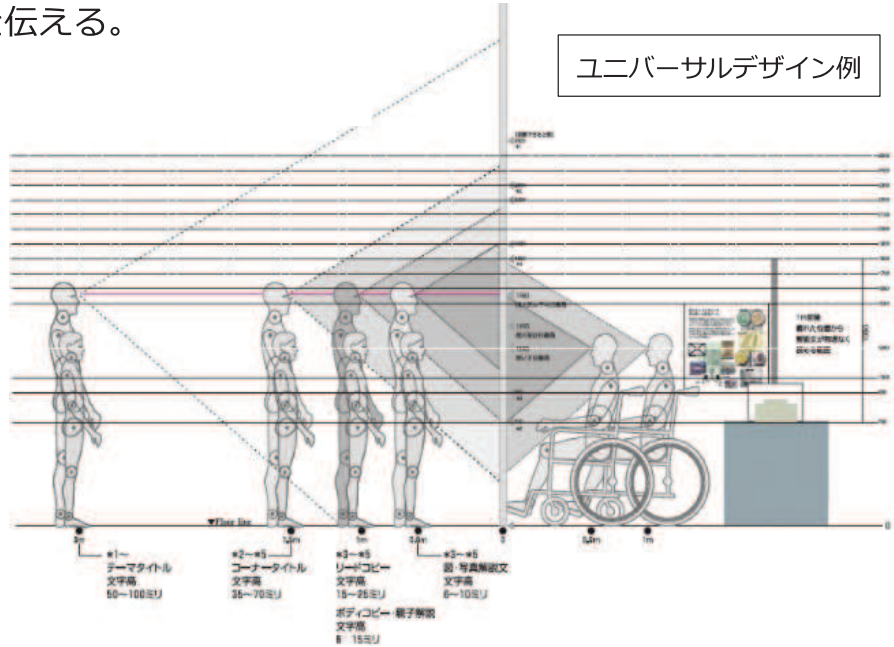
◆年齢や障がいの有無、言語などにかかわらず、多くの人が利用可能なデザインの採用
（高齢者、身障者、外国人など見学弱者への配慮）

○海外の方を含め、多様な人が訪れる施設として、ユニバーサルデザインの考え方に基づく施設づくりを推進する。
○わかりやすい動線、通路幅の確保など、より快適で安全に移動できる空間づくりを行う。
○来館者の博物館疲労を軽減するため、適切な箇所に休憩スペースを用意する。
○わかりやすい館内サイン、読みやすい解説パネル、多言語での対応など、だれもが容易に理解でき、行動できる表示を行う。
・身長差などを考慮した視覚範囲内での展示を基本とする。
・視覚に障がいのある方に対しては、点字による解説等を導入する。
・弱視の方にも認識しやすいUDフォントの採用、適切な文字の大きさ、分量に配慮する。
・色弱の方にも判別しやすい色、アウトラインの採用で的確に内容を伝える。
・聴覚障がいのある方に対しては、テロップ等で内容を伝える。



車椅子同士のすれ違い幅

ユニバーサルデザイン例



◆グラフィックパネル

来館者にわかりやすく、読みやすい解説で要点を簡潔に伝える。
図形やイラストなどを併用した視覚的にも、わかりやすいインフォグラフィックで、理解を補助する。

1）視認性の向上

○瞬間的な認識を向上するため、伝えたい文字情報を大きく、色を変え差別化するとともに、背景に対し物体の色や形が際立っていて、わかりやすいように配慮する。

2）可読性の向上

○読みやすい文章量や構成にし、主題を抜きとり見出しに変えるほか、連続して読み続けられるように余白を入れ、適度に休憩ポイントを作るなどの工夫を行う。

3）判読性の向上：インフォグラフィックの採用

○容易に読める文字の大きさは確保し、一般的に馴染みのない専門用語の使用はできるだけ控える。
また、文章だけでは伝えづらく誤解を招きそうな文面は、図形やイラストなど視覚的要素を活用する。

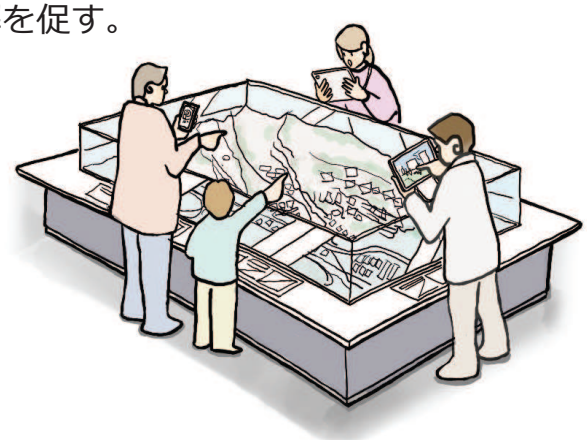
多言語表記と動線の明確化の基本方針

○現在の解説文は、文字が小さく文章は多いとの指摘がある。
これはテキストの文字量は一般施設と同等程度であるが、詳細項目まで多言語で並列展示を行っているためと考えられる。

○そのため新展示においては、ICTを活用することを前提に多言語表記の基本形は大、中項目のタイトルまでは、4カ国語(日・英・中・韓)表記。小項目タイトルは、日・英表記とする。
また、その他の言語については、タブレット＋QRコード等を活用した翻訳の対応を検討する。

ジオラマや模型装置の活用

○図形やイラストで理解しにくい内容については模型化することで、理解の一助とする。
参加性を重視した体験型展示で、仕組みの理解を促す。



◆最新のデジタル技術採用及び体験装置の設置

〇来館者と展示、原爆遺構などをつなぐ最新のデジタル技術を活用。
直観的に理解しやすい使用方法で、だれもが操作しやすく体験できるとともに、発信能力の強化を図る。

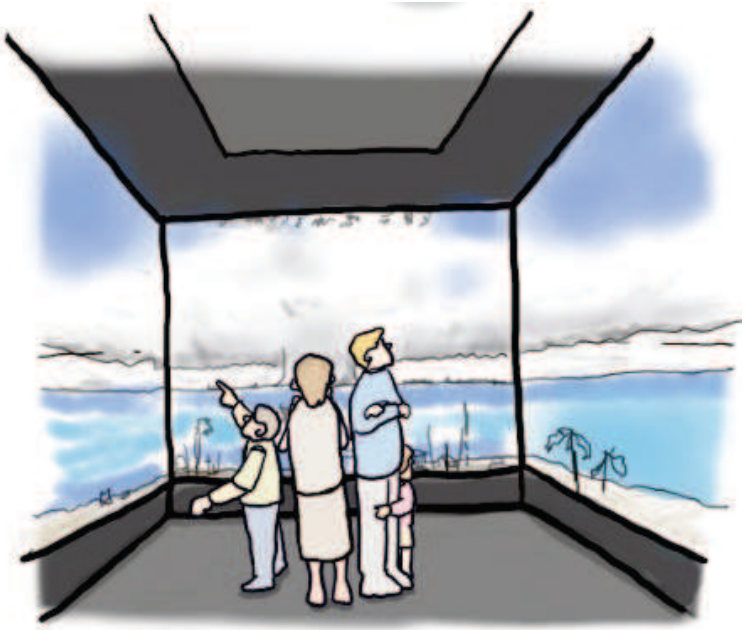
「没入体験型展示：核実験の映像を用いたイマーシブ体験」

核実験が及ぼす影響を身近なものとしてとらえ、核兵器の問題に自ら向き合うための意識を涵養する。

「再現展示：長崎市の復興ジオラマ」

1955年の爆心地周辺をジオラマで再現することで、当時の状況を知る。あわせてターゲットARで詳細情報を提供するとともに、現在の爆心地周辺を表示し、焦土と化した長崎の街がどれほどの復興を遂げたのか知ってもらう。

※本施設の来館者特性から、HMD等の個人対応は困難と考えるため、
複数人数が同時に体験可能な手法を検討する。



◆多言語解説システムの整備

〇現在、音声解説装置で対応している多言語による
「QRコード展示ガイドシステム」を増強整備。
主要な展示解説、展示資料に関しても多言語での解説を
検討する。

◆資料保存機能の強化

○展示資料に関しては、空調設備、外光の処理、照明設備、湿度管理可能な展示ケース等の検討とともに、レプリカを作成し展示、必要に応じて入れ替えができるように環境を整える。
特に外光の影響を受けるＣコーナーでは、UV カットシート等（紫外線カット素材）による保護措置を行う。
○貴重な写真、絵画資料等はデジタル化を図り、実物資料の保存と情報の活用を図る。
○展示資料の移動は専門業者が行い、資料の損傷を回避する。

◆予備知識に乏しい子どもたち・平和学習への対応

１）予備知識に乏しい子どもたちが、戦争や核兵器の問題を自分にも起こりうることとして理解できる展示

○すべてを解説するのではなく、子どもたち自身の気づきや知的好奇心を喚起させ、探求へと誘う解説を採用する。
○今を生きる子どもたちとのギャップを埋める展示を整備する。
今は使われておらず、現代の子どもたちには理解が困難な資料等、自分たちとは違うといった考えを払拭する展示を整備する。
○最新の情報へと更新が容易な展示装置を整備し、差し替え可能な解説についても検討を行う。

２）平和学習に対応した展示

○班行動をとる修学旅行の子どもたちに対応したスペースを確保する。
○事前学習資料との連動性を強化する。
○タブレットを使用した学習に対応する、調べ学習対応機能を整備する。

３）発信と共有機能の充実

○原爆資料館や原爆遺構で学んだことを中心に、子どもたちの情報発信機能を強化する。
○子どもたちから大人まで、今を生きる人々の原爆被爆に対しての想いやメッセージに共感できる展示を整備する。